

溝上慎一の教育論(動画チャンネル) No397

(新著の紹介)

探究型英語授業をはじめよう

—英語授業に「オモロイ」と「深い」をプラス!—

上山晋平先生 ([広島県] 福山市立福山中・高等学校教諭)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)



上山晋平

かみやま しんぺい

晋上
平山

(広島県) 福山市立福山中・高等学校・教諭

(単著)

- ・『高校教師のための「探究学習」ガイドブック』
- ・『改訂版 高校教師のための学級経営365日のパーフェクトガイド』
- ・『はじめての探究型英語授業ガイドブック』
- ・『英語トリオ・ディスカッション指導ガイドブック』
- ・『英語リテリング&ショート・プレゼンテーション指導ガイドブック』(以上、明治図書) など

(委員等)

- ・中学校検定教科書『Here We Go!』(光村図書)編集委員
- ・『オンライン探究教材アクチュアル』(大修館)編集委員
- ・文科省「持続可能な開発のための教育(ESD)の手引(令和3年5月改訂)」委員

No263

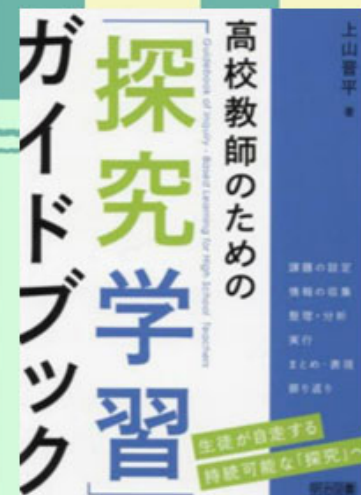
新著の紹介(コーナー)

高校教師のための 「探究学習」ガイドブック

生徒が自走する「持続可能な探究」とは？

上山晋平

([[広島県] 福山市立福山中・高等学校教諭)



溝上慎一の教育論「動画チャンネル」(基本的に毎週水・土に配信しています)

英語授業を探究型に！ 悩みや解決策をまとめたガイドブック



1章 探究とは？

探究型英語授業の**基本**

2章 これで分かる！

探究型授業**6つのプロセス**

3章 時間がなくてもできる！

探究型授業**5つのモデル**

4章 テーマで選ぶ！

「教科書探究」**8つの授業レシピ**

5章 探究の成果をどう測る？

評価・学力・入試とのつながり

6章 授業づくりを支える！

探究の**視点とツール**

7章 実践しよう！

探究型授業の**単元デザイン**

それではご覧ください

英語授業に
「オモロイ」と「深い」を
プラス！



探究型英語授業を はじめよう



(広島県) 福山市立福山中・高等学校
上山晋平 (かみやま しんぺい)
kamiyan0406@yahoo.co.jp

自己紹介(上山 晋平)

【1 所属】 広島県の公立中高一貫校 英語教員

【2 役職】 研究企画主任(教育研究:探究、ESD)

【3 執筆】 英語教員・学級担任対象書籍



生徒作成

家庭学習

テスト作り

AL

技能統合

スピーキング

ライティング



リテリング

トリディス

授業づくり

学級担任

探究学習

英語探究



自己紹介(上山 晋平)② 関心を含めて

【4 英語】 外務省米国交流事業、全英連、**中学英語教科書編集委員**(光村)

【5 ESD】 **文科省「ESDの手引」改訂 委員**

ユネスコ(バンコク) Happy Schools Project 発表

ACCU:SDGs教材・指導法・評価開発

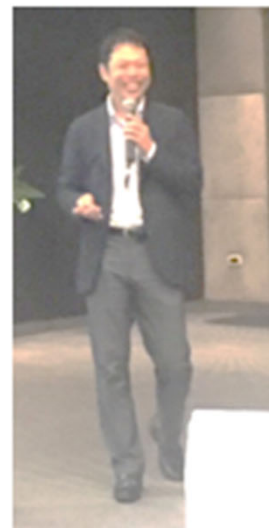
ESD大賞(文部科学大臣賞)第10回(2019)

ASPUnivNet(ユネスコスクール支援大学) **評価検討委員**



ESDや探究にも関心をもって新たな教育に取り組み中

【6 探究】 **探究編集委員**(大修館探究オンライン教材アクチュアル)



*全て学校・市教委の許可のもと活動

英語授業を探究型に！ 悩みや解決策をまとめたガイドブック



1章 探究とは？
探究型英語授業の**基本**

2章 これで分かる！
探究型授業**6つのプロセス**

3章 時間がなくてもできる！
探究型授業**5つのモデル**

4章 テーマで選ぶ！
「教科書探究」**8つの授業レシピ**

5章 探究の成果をどう測る？
評価・学力・入試とのつながり

6章 授業づくりを支える！
探究の**視点とツール**

7章 実践しよう！
探究型授業の**単元デザイン**

「探究型英語授業」よくある疑問・問い



「英語授業で探究
なんて難しそう・・・」



「いつもの授業」にちょっと
工夫をすればスタートできます！
学期に1回、年に1回でも！

探究型授業の最大の魅力は
＝「生徒の目が輝く！」
＝「教える側も面白い！」



英語授業に「面白い」「深い」をプラス！

本書で(本日)ご紹介したいこと



- いきなり今の授業を大幅に変えるというのではなく、
- 今の単元をベースに探究の要素を1~2時間加味する(入門編)。
- ポイントは2つ。
 - ①生徒が取り組みたくなる**単元課題**
 - ②無理なく実施できる**単元構成**
(高次思考を鍛える課題解決型の単元例)
 - ー「主体的な学習スペクトラム」(溝上,2025)の三層のうち、以下の実践例
 - ・第Ⅰ層「**課題依存型**」の主体的な学習
 - ・第Ⅱ層「**自己調整型**」の主体的な学習
- 「**論点整理**」を踏まえた次の学習
指導要領改訂に向けた実践例としても!

本日の流れ

①前提（実践の前に）

②探究型英語授業のイメージ

③探究型英語授業のポイント 1 魅力的な課題づくり

④探究型英語授業のポイント 2 単元構成

⑤生徒の声

本日の流れ

①前提（実践の前に）

②探究型英語授業のイメージ

③探究型英語授業のポイント 1 魅力的な課題づくり

④探究型英語授業のポイント 2 単元構成

⑤生徒の声

疑問・問い



1章



【前提】

本日注目したい

教育のキーワードは？

—探究型英語授業は何のために?—

キーワード❶ 全ての学校の教育の理念 『持続可能な社会の創り手』

次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

補足イメージ1-①

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～

① 深い学びの実装 (Excellence)

主体的・対話的で

主に第2,3,4,6章
(生きて働く「確かな知識」の習得、資質・能力育成の具体
化・深化、「好き」意識の「得意」に伸ばす、情報活用能力
協働的な学び等)



③ 実現可能性の確保 (Feasibility)

主に第5,7章
(授業時数の適正化・平準化、教科書の精選、構造化、裁量的
な時間など様々な方策による教師・子供双方の「余白」の創出、
カリキュラム・マネジメント等)

デザインする高度専門職としての教師 デジタル学習基盤をはじめとする基盤
「時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白 総合的な勤務環境整備

② 多様性の包摂 (Equity)

主に第3,7章
(調整授業時数制度、裁量的な時間、個別の児童生徒に係る
教育課程の仕組み、デジタル学習基盤を活用した学習環境デザ
イン、個別最適な学び・協働的な学び)



多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、

自らの人生を舵取りすることができる

民主的で持続可能な社会の創り手

をみんなで育む

キーワード② 主体的・対話的で『深い学び』

次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

補足イメージ1-①

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～

主体的・対話的で
① **深い学びの実装**
(Excellence)

主に第2,3,4,6章
(主体的・対話的で深い学びの基盤・育成・能力育成の具体化・深化、「好き」意欲「得意」を伸ばす、情報活用能力の抜本的向上、個別最適な学び・協働的な学び等)

② **多様性の包摂**
(Equity)

主に第3,7章
(調整授業時数制度、裁量的な時間、個別の児童生徒に係る教育課程の仕組み、デジタル学習基盤を活用した学習環境デザイン、個別最適な学び・協働的な学び等)

③ **実現可能性の確保**
(Feasibility)

主に第5,7章
(授業時数の適正化・平準化、教科書の精選、構造化、裁量的な時間など様々な方策による教師・子供双方の「余白」の創出、カリキュラム・マネジメント等)

学びをデザインする高度専門職としての教師 デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備
「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白 総合的な勤務環境整備

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、
自らの人生を舵取りすることができる 民主的で持続可能な社会の創り手 をみんなで育む

英語探究と「3つの学び」との関連

英語探究は、「主体的・対話的で深い学び」を具現化する実践。

(特に「深い学び」にアプローチ可)

② 対話的な学び

- ① 「生徒同士の協働」を通じ、自己の考えを広げ深めている。
- ② 「教職員や地域の人との対話」を通じ、自己の考えを広げ深めている。
- ③ 「先哲の考え方を手掛かりに考えること」等を通じ、自己の考えを広げ深めている。

- ・ペアやグループで意見交換する
- ・中間発表やフィードバックで考えを深める
- ・他者の視点を取り入れて発想を広げる

③ 深い学び

- ① 知識を相互に「**関連付け**」てより深く理解している。
- ② 情報を精査して「**考えを形成**」している。
- ③ 問題を見いだして「**解決策**」を考えている。
- ④ 思いや考えを基に「**創造**」している。

- ・SDGsや異文化など、現実のテーマとつなげる
- ・複数の情報を比較・分析し、意見を構築する
- ・習得した表現を課題解決や提案に活用する

(文科省の定義を基に簡条書きで整理し、探究型英語授業との関連を追記)

キーワード③ 探究

「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じた

補足イメージ1-②

自らの人生を舵取りする力 と 民主的で持続可能な社会の創り手 育成 (今後の検討イメージ)

「好き」を育み、「得意」を伸ばす
(興味・関心)

×

当事者意識を持って、自分の意見を
形成し、対話と合意ができる

【各教科等での検討イメージ】

好き・得意をベースとした
主体的な進路選択の促進

高
中
小
幼

課題設定
の充実

生きて働く「確かな知識」の習得

興味・関心が広がる
教材・学習方法の選択を促進

自分の意見を表現する活動の充実

探究的な要素を持つ学習活動の充実

家庭学習の内容を自律的に決めら
れるような段階的指導
(家庭学習はじめ学習習慣の確立を含む)

個人探究
グループ探究

総合

各教科等

児童生徒主体のルール
形成や学校生活改善、
行事の創造等の明確化
(みんなが学びやすいルールや環
境の構築を含む)

納得解を形成しようとす
ることの重要性の明文化
(安易な多数決の回避や少数意
見の吟味)

特別活動

考え、議論する
道徳の徹底
(主体的な判断の
重要性、知・徳・体
の調和のとれた発達
に向けた、道徳的価
値の対立を乗り越え
る必要性や道徳的
実践の強調)

道徳

言葉を用いて思考を深めていく指導

他者と関わり協同する力の育成

多様な子供を誰一人取り残さない
視点としての個別最適な学びと協
働的な学びの一体的充実

科学的知見も生かした
効果的な指導計画・授業方法
児童生徒の学習方略の指導

障害や認知特性等
多様な実態を踏まえた調整
(教科等、家庭学習含む)

全ての活動の基盤としての
心理的安全性の確保

キーワード③ 『探究』



探究型の英語授業・・・
英語授業における
習得・活用・探究の
違いは？

習得・活用・探究とは？

学び

「習得」(知識や技能を覚える)

「活用」(使ってみる)

「探究」(問いを立てて考えを深める)

段階	特徴	英語授業の例	育つ力
習得	知識や技能を身につける	単語や文法を覚え、 例文で練習する	語彙・文法知識・正確さ
活用Ⅰ	習得事項を既存場面で使う(教師主導)	本文を使ったロールプレイや会話練習	表現力・コミュニケーション力
活用Ⅱ	新しい文脈(生活・社会も可)で活用する(教師と生徒が半々で関わる)	字んた表現で学校をもっと良くするアイデアの提案／社会的なテーマでミニ発表	思考力・創造力
探究	生徒が問いを立て、課題を設定し、知識を活用する	地域の問題点を調べ、解決策を提案する	課題解決力・発信力



今、求められている
(本日注目したい)

教育(のキーワード)は?

—探究型英語授業は何のために?—

- (理念) 持続可能な社会の創り手
- (学び) 深い学び
- (過程) 探究

疑問・問い



【ここから本題】

『探究』

総合探究と英語科の
探究との違いは？

「総合探究」と「教科探究」との違いは？

総合的な探究の時間

「横断的・総合的」で、実社会や実生活の複雑な問題の解決に取り組む。答えが一つに定まらない問題を扱い、最適解や納得解を見いだす。多様な他者と協働・対話し展開する。★生徒主導（生徒が課題発見）

各教科・科目における探究的な学習

各教科・科目における「理解をより深める」ために、探究を重視する（探究を目指す）。扱う範囲は、科目内の「鋭角的な質※」の探究。

※広範囲でなく、角度を絞って掘り下げる。

★教師主導（基本的に教師が課題設定）
教師と生徒の主導が半々の場合も。

（出典）「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」p.10とp.44を参考に作成

● **総合的な探究の時間** =横の広がり（教科横断）

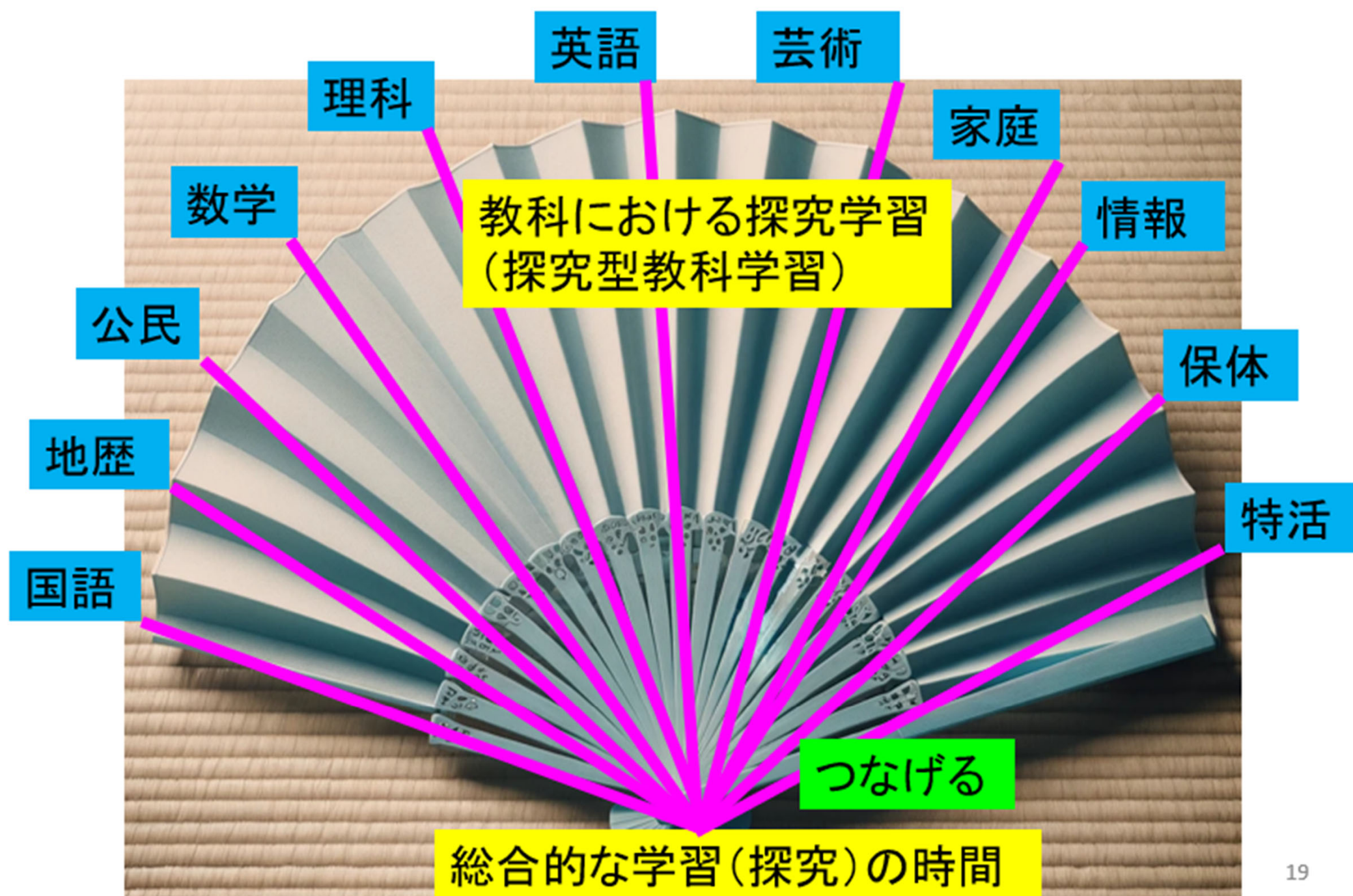
→興味・関心を出発点に、教科の枠を越えて課題発見・解決を育成

● **教科の探究** =縦の深まり（教科内容の深化）

連携・補完

→教科の理解を深めることが目的で、過程で思考力や表現力も育つ

今後の教育で大切な探究。どこで？



探究と教科をつなぐ現実的な2つのアプローチ

探究と教科をつなげるのに、各教科で「探究」に関してできる
現実的なアプローチは次の2つ(上山)。

① 探究の内容を各教科で補強する

例: 「地域の活性化」についての探究を各教科でサポートする
(カリマネ)

- 地歴: 現地調査、資料収集
- 数学: 統計・データ整理
- 芸術: ポスターやイラスト制作
- 英語: 英語のポスター



② 教科の内容(文脈)で探究型の学習を行う

- 英語: 教科書で学んだ実世界の問題の解決策を考える

本日の流れ

①前提（実践の前に）

②探究型英語授業のイメージ

③探究型英語授業のポイント 1 魅力的な課題づくり

④探究型英語授業のポイント 2 単元構成

⑤生徒の声

疑問・問い



英語科における
探究型授業の
イメージとは？



英語科における探究型授業？【ざっくり】

「探究って、調べて発表すること？」

探究型英語授業

＝「(唯一の正解がない) 問いに対して、調べ、考え、英語で伝える」

※「問いを立てる」は必須ではない

従来の授業(知識中心)



環境問題の英文を読んで設問に答える

Focus: 正解かどうか (Correctness)

探究型の授業(生徒中心)



(設問に答えるだけでなく)
環境問題について、自分の解決策を提案する

Focus: 思考と表現 (Thinking & Expression)

「英語力」+「思考力や表現力」、「社会とつながる力」を育む

疑問・問い



【英語科の失敗例あるある】
課題を工夫しないと、
「みんな同じ」授業に
なってしまう。たとえば・・・

英語科における探究型授業のイメージ



よくある自由英作文のお題

「日本文化を紹介しよう」

(漠然とした問いかけ)

寿司、花見、お正月、お盆……

[皆、似た内容:つまらない]

ポイント



人によって内容が
違う英作文だと、
読みたくなる(聞きたくなる)

【問いの工夫で、考えや表現が多様に!】

高1の「日本文化紹介」の単元【土偶】:問いを変える

【自由英作文シート(for L.4)】

“Bridging Cultures: Japan Meets Downlands” (文化の架け橋:日本とダウンランズの出会い)

(1) 本単元の Mission (お題)

12月に、オーストラリア・ダウンランズの姉妹校の生徒(21名)が本校にやって来ます。そのとき、互いの文化を紹介し合う機会があります。みなさんは「日本(文化・歴史・習慣など)」について紹介します。その準備・リハをしましょう。

(目的) 日本の歴史や文化、日本人の習慣について紹介し、相手が「日本は面白い!」「深い!」と思えるようにする。

(条件) ①紹介するものをはっきり決める。②なぜそれを選んだのか理由を説明する。

・その文化を知ることで、相手が日本についてどんな理解を深められるのかを考えましょう。

③選んだものを具体的に説明すること。

・文化情報を正しく伝える。・表面的な説明だけでなく、相手文化と比較したり、背景や意味も触れましょう。

(ポイント)・多様性を大切に、できるだけ他の人とテーマが重ならないようにしましょう。

・自分が選んだ文化を象徴した土偶を粘土(百均可)や色紙で作り、発表で紹介できるとさらにボーナス!

(身に付く力)

↑土偶の特徴も調べると面白い。

- 異文化理解力(相手の文化と比較しながら、日本文化を「価値ある情報」として整理・発信できる力)
- 思考力と表現力(文化を選んだ理由や意味を考え、作品と説明を組み合わせることで深く表現する力)
- 英語コミュニケーション力(国際交流の場で、自分の作品や文化を自信をもって伝える力)



「**誰に**(聞き手)、**なぜ**、**何を**(個人的な視点)」伝えるかを設定。

→「英語力」+「思考力や表現力」、「社会とつながる力」を育む

高1の「日本文化紹介」の単元【土偶】：問いを変える

【自由英作文シート(for L.4)】

“Bridging Cultures: Japan Meets Downlands” (文化の架け橋: 日本とダウンランズの出会い)

(1) 本単元の Mission (お題)

12月に、オーストラリア・ダウンランズの姉妹校の生徒(21名)が本校にやって来ます。そのとき、互いの文化を紹介し合う機会があります。みなさんは「日本(文化・歴史・習慣など)」について紹介します。その準備・リハをしましょう。

(目的) 日本の歴史や文化、日本人の習慣について紹介し、相手が「日本は面白い!」「深い!」と思えるようにする。

(条件) ①紹介するものをはっきり決める。②なぜそれを選んだのか理由を説明する。

・その文化を知ること、相手が日本についてどんな理解を深められるのかを考えましょう。

③選んだものを具体的に説明すること。

・文化情報を正しく伝える。・表面的な説明だけでなく、相手文化と比較したり、背景や意味も触れましょう。

(ポイント) ・多様性を大切に、できるだけ他の人とテーマが重ならないようにしましょう。

・自分が選んだ文化を象徴した土偶を粘土(百均可)や色紙で作り、発表で紹介できるとさらにボーナス!

(身に付く力)

↑土偶の特徴も調べると面白い。

- 異文化理解力(相手の文化と比較しながら、日本文化を「価値ある情報」として整理・発信できる力)
- 思考力と表現力(文化を選んだ理由や意味を考え、作品と説明を組み合わせで深く表現する力)
- 英語コミュニケーション力(国際交流の場で、自分の作品や文化を自信をもって伝える力)



「誰に(聞き手)、なぜ、何を(個人的な視点)」伝えるかを設定。

→「英語力」+「思考力や表現力」、「社会とつながる力」を育む

高1の「日本文化紹介」の単元【土偶】：問いを変える

【自由英作文シート(for L.4)】

“Bridging Cultures: Japan Meets Downlands” (文化の架け橋:日本とダウンランズの違い)

(1) 本単元の Mission (お題)

12月に、オーストラリア・ダウンランズの姉妹校の生徒(21名)が本校にやってきました。そのとき、互いの文化を紹介し合う機会があります。みなさんは「日本(文化・歴史・習慣など)」について紹介します。その準備・リハをしましょう。

(目的) 日本の歴史や文化、日本人の習慣について紹介し、相手が「日本は面白い!」「深い!」と思えるようにする。

(条件) ①紹介するものをはっきり決める。②なぜそれを選んだのか理由を説明する。

・その文化を知ること、相手が日本についてどんな理解を深められるのかを考えましょう。

③選んだものを具体的に説明すること。

・文化情報を正しく伝える。・表面的な説明だけでなく、相手文化と比較したり、背景や意味も触れましょう。

(ポイント)・多様性を大切に、できるだけ他の人とテーマが重ならないようにしましょう。

・自分が選んだ文化を象徴した土偶を粘土(百均可)や色紙で作り、発表で紹介できるとさらにボーナス!

(身に付く力)

↑土偶の特徴も調べると面白い。

- 異文化理解力(相手の文化と比較しながら、日本文化を「価値ある情報」として整理・発信できる力)
- 思考力と表現力(文化を選んだ理由や意味を考え、作品と説明を組み合わせ、深く表現する力)
- 英語コミュニケーション力(国際交流の場で、自分の作品や文化を自信をもって伝える力)



「**誰に**(聞き手)、**なぜ**、**何を**(個人的な視点)」伝えるかを設定。

→「英語力」+「思考力や表現力」、「社会とつながる力」を育む

発表の様子（探究で地場産業・琴）【本人許可済】

※1分間 ※画面にも注目（見えづらくて申し訳ありません）

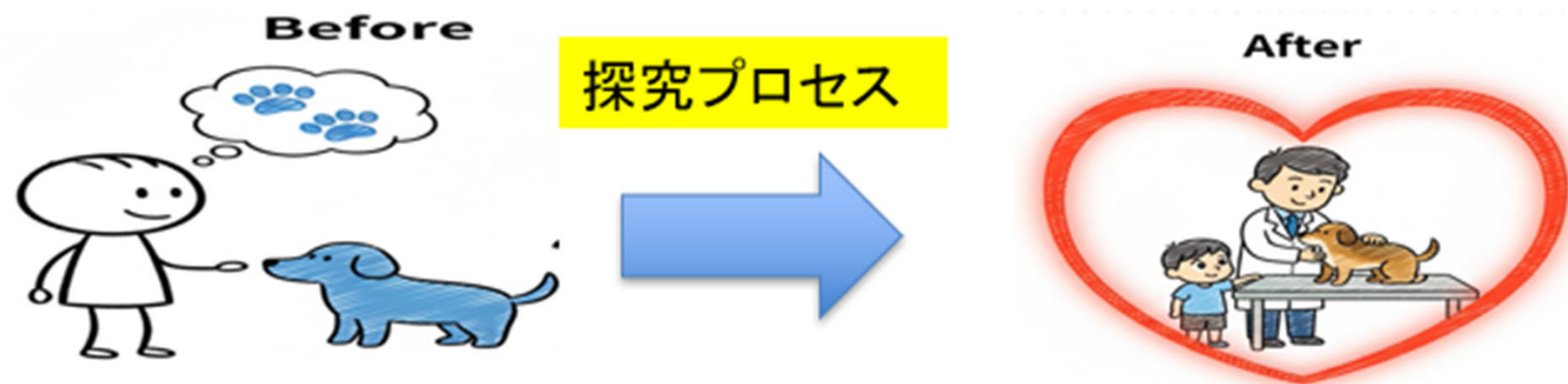


探究学習の疑問点



こうした探究型授業の
実践結果、生徒の作文には
どんな変化が？

(単元)「就きたい職業は？」【獣医】



【Before (教科書の課題)】

I want to be a vet. I like animals. I want to help them. Vets work in clinics. I will study hard.

- ※好きなことの羅列
- ※動機や思いが伝わりにくい

【After】

In 10 years, I want to be a vet. When I was a child, my dog got very sick, and a kind vet saved him. That experience made me think, "I want to do the same." I will study science and volunteer at an animal shelter. My dream is to open a clinic in my hometown.

- ※自己分析や体験に基づいた深い価値観・将来で、聞き手にも伝わる

疑問・問い



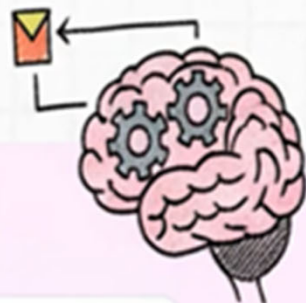
2章



「探究型英語授業」には
どんな学習プロセスが
あるの？

探究の6つのプロセス

探究の6つのプロセス



1. 問いの設定

自分だけの「問い」を立てる

2. 情報収集

問いについて情報を集める

3. 整理・考察

情報を整理し考えを深める

4. 成果物の作成

考えを形にする

5. 発表・共有

成果を発表し共有する

6. 振り返り

活動全体を振り返る

毎回
全てをする
必要はない



【レベルも様々でOK】 英語探究6プロセス×3レベル

探究プロセス	やること	レベル1	レベル2	レベル3
①問いの設定	疑問や気づきを「問い」に変える	<input type="checkbox"/> <u>教師が用意した問い</u> に答える 例)「フードロスって何？」	<input type="checkbox"/> <u>教師の問いを手がかりに</u> 、自分の関心に沿った問いを加える 例)「なぜ日本でフードロスが問題？」 →「日本で特によく捨てられる食べ物は？」	<input type="checkbox"/> 社会や生活に結びつけ、 <u>自分で新たに問いを立てる</u> 例)「学校給食でフードロスを減らすには？」
②情報収集	調べて必要な材料をそろえる	<input type="checkbox"/> <u>日本語資料</u> を中心に調べる	<input type="checkbox"/> <u>英語記事や映像</u> を使って調べる	<input type="checkbox"/> <u>フィールドワークやインタビュー</u> で実地調査する
③整理・考察	情報を整理し、理由や背景を考える	<input type="checkbox"/> <u>要点を書き抜いたりまとめたり</u> する	<input type="checkbox"/> <u>分類・比較</u> して違いや特徴を考える	<input type="checkbox"/> <u>原因や背景</u> を掘り下げ、自分の意見を形成する
④成果物作成	考えを表現物にまとめる	<input type="checkbox"/> <u>短文</u> でまとめる	<input type="checkbox"/> <u>ポスターやスライド</u> で表現する	<input type="checkbox"/> <u>動画・提案書</u> などでより <u>創造的に</u> 発信する
⑤発表・共有	成果を伝え合い、学びを広げる	<input type="checkbox"/> <u>クラス内で短く</u> 発表する	<input type="checkbox"/> <u>ポスターセッションやギャラリー形式</u> で共有する	<input type="checkbox"/> <u>校内外に</u> 発信し、 <u>社会とつなげる</u>
⑥振り返り	学びを見直し、次につなげる	<input type="checkbox"/> <u>感想</u> を書いて終える	<input type="checkbox"/> <u>成功点と改善点</u> を整理する	<input type="checkbox"/> <u>次の課題や学び</u> に <u>どう生かすか</u> を考える

それぞれの「プロセス」で、主にどの「レベル」をすることが多いでしょうか？

疑問・問い



「何となく楽しそうだけど、
探究型授業は準備に時間がかかりそう」
(そんな余裕はない)な方も大丈夫。
「探究型英語授業」には
5つのモデルがあります(柔軟な取組)。

授業時間に合わせて選べる「5つのモデル」

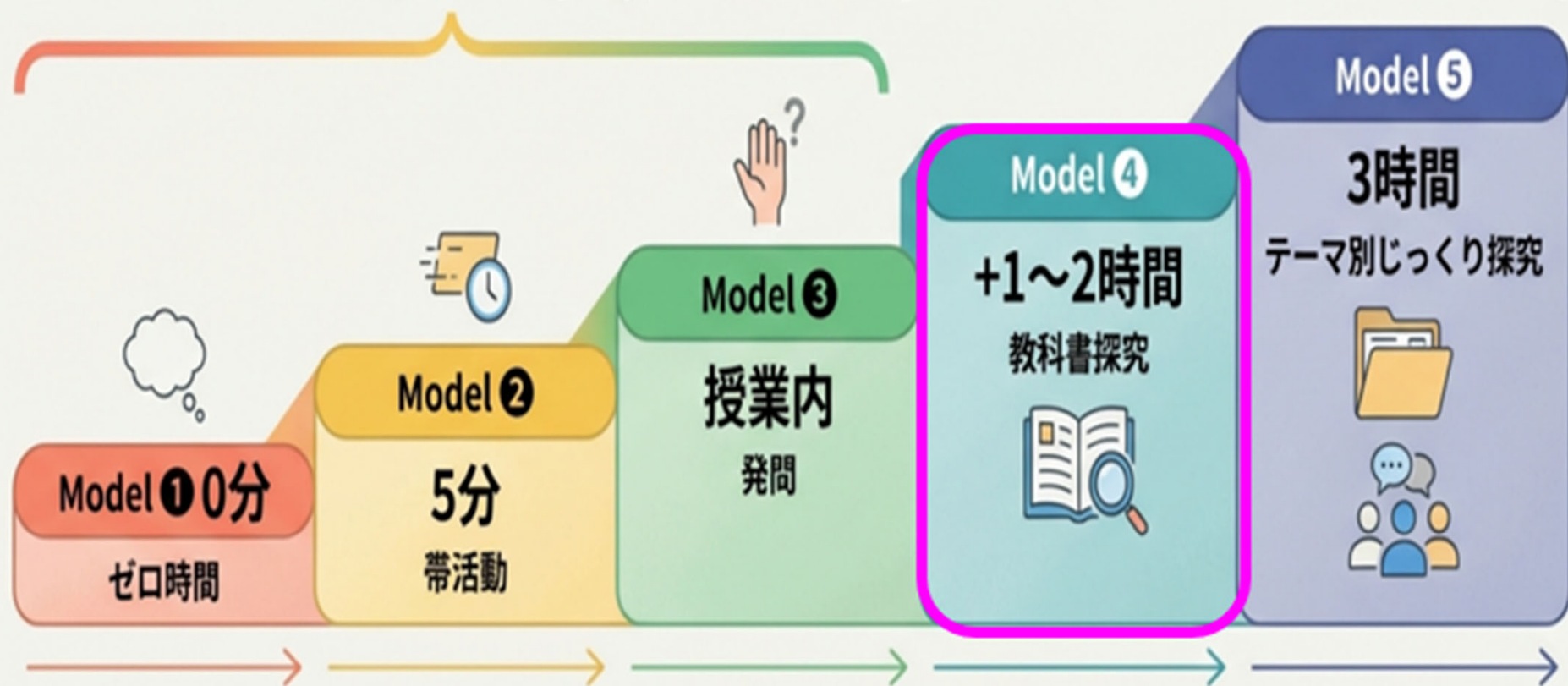
「プチ探究」(日常)と「じっくり探究」(単元末・学期末)を使い分ける。

【本格的な探究】

【探究要素の体験】

プチ探究 (Petit Inquiry)

じっくり探究 (Jikkuri Inquiry)



【論点整理】「余白の創出」(無理なく取り組めるモデル)

疑問・問い



生活や社会に
関連させた
教科書探究の例は？

【Before (工夫前)】

What is accessibility?
(アクセシビリティとは?)



【After (お題を工夫)】

- 市内や学校を実際に歩き、バリアフリーの観点から改善点を探し、写真付きで提案しましょう。
- 問題の特定、問題点の説明、解決策の構想をまとめましょう。
- 優れたアイデアは福山市や学校に提案・提出される可能性があります(※SDGs11「街づくり」)
- 工夫: Localize + 目的・相手設定

単元の流れ

(冒頭でゴールを示し、家庭学習と組み合わせてプレゼンに導く)

時

【論点整理】「自己調整」

学習活動

1

- 【**単元通し読み**】 | 単元を読み通す。
- ① **通し読み**をする (時間を計ってTF等)
 - ② **100字要約**する (要約シート)
 - ③ **Reflection Sheet**で単元課題の確認



STEP 1 (1時間目)
ゴール共有

2
3
4
5

- 【**1セクション・1時間でスキルアップ**】
「本文プリント」を活用
※授業：1分間リテリング (練習や共有)
※家庭：調査や原稿作成



STEP 2 (2~5時間目)
通常授業+準備

6

- 【**まとめ (中間プレゼン)**】
- ① レッソンの**単語テスト** (単語テストシート)
 - ② **2分間Short Presentation** (毎時間のSPまとめ)
 - ③ **Reflection Sheet**で**中間評価** (本番に向けて改善)
 - ④ サブノートの残り
- 【論点整理】「学習改善に生かす形成的評価」



STEP 3 (6時間目)
中間プレゼン

後日

- **筆記**テスト
- **パフォーマンス**テスト (実技：1分間)
- **再**テスト (復習と再テストで学年全員の底上げ)



STEP 4 (数日)
本番プレゼン

0 Lesson Goals

目標・課題の確認 (Why are we here?)

Why are we here?

What is our **mission** for **Lesson 3**?

（単元全体の課題・ゴールは？）

Transforming Our City and School

私たちの街と学校を
変える（提案）

11 住み続けられる
まちづくりを

67

各単元でキャッチーなプロジェクト名を

単元末の課題(プロジェクト)を知らせるシート(1時間目)

表

【L3】 Reflection Sheet (学習の見直し&振り返りシート) 【重要】

(1) 目的 ※本 Reflection Sheet の目的をまずおさえてよう。

次の①と②を通して「学びに向かう力」(主体的に学習に取り組む態度)を育む、特に英語習得に必要な「(学習に)コミットメント」に加え、「自己調整」(自分の学習を工夫・調整する)と「粘り強さ」(粘り強く取り組む)を発揮できるようになる。

① 単元目標を達成するプランを練る。(主体的・意図的に授業内外の学習に取り組む、確実に成長するため)
② 目標の達成状況と、過程で身に付いた力を言語化する。(言語化できるとその質・能力が身に付きやすい)



(2) 単元の目標(全員共通) ※単元の「最後」にできることを、単元の「最初」に確認しよう(登る山を見定めて進む)

	L3 Accessible Japan (アクセシブル・ジャパン) 【多様性・観光/エッセイ】	
文法	□ 様々な分詞構文(受け身・否定・完了/Not knowing...)	□ 強調構文(it is ~ that ...)
目標	□ Transforming Our City and School (自分の街や学校を改善する。実際の变化を導く行動。80 語程度)	
評価観点	① (語数) 1 分間で「80 語以上」を目指す(プレゼン時)。② (正確さ) できるだけ正確な発音・文法で話す。 ③ (内容) 「本文の内容」(Summary) だけでなく、本文以外の「新情報」(e.g. 街・学校・人・出来事)を入れる。 ※聞いた人が「確かに!」「なるほど!」となるような、「共感性」や「独自性」(創造性)のある内容を目指す。	
工夫 多自記入	目標達成のために、具体的に何に取り組んだり、何を意識したりするとよさそう?【見直し】	
	学習内容	プレゼン方法の目標・改善
	例) ●●について検索し、課題解決策を調べる。	例) 自宅でタブレットを使い練習を録音し改善点を修正する

(3) 中間振り返り(単元のまとの) ① プレゼンをペアで動画撮影し合う。② 振り返る。③ 動画を提出する。2分()語

	学習内容	プレゼン方法
Good	□ 目標に照らして良い点(うまくできるよくなったことや楽しかったこと)は?(具体的に)	
Bad Reason	□ 目標達成に向けての課題点(できていないこと、難しいこと)とその理由は?(具体的に)	
Next	□ (課題点やその理由を生かして)うまくなるようになるために今後どのような工夫ができそう?	

(4) 最終振り返り(パフォーマンステスト) ※(2)(3)で書いた目標や振り返りと関連付けて実施し、記入しよう

	学習内容	プレゼン方法
Good		
Bad Reason		
Next		

クラス (5 -) No. () 名前 ()

(参考) 国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 外国語科(高等学校・中学校)

裏

【重要! 1時間目シート】

■ Are you excited for the "Transforming Our City and School" project? We want to make our town and school easier for everyone. Let's share our ideas with interesting presentations and pictures. Our aim is to help create sustainable cities and communities (SDG 11). The best ideas will be sent to Fukuyama City and our school, representing the voices of high school students. This isn't just a task, it's action for real change! This can lead to real changes. It's time to shape the world and make a big difference! We can't wait to hear your amazing ideas to improve our community. Let's work together to make it even better!

L3 では Transforming Our City and School (町や学校を改善する)プロジェクトに取り組んでみましょう!(中学校)に出かけ、改善した方がいい場所(町や学校)を見つけ、皆にとって使いやすくなるアイデア(アイデアの概念)を、画像付きでプレゼンしましょう。優れた提案は、高校生の声として福山市や学校に提出され、現実の改善につながります。あなたのアイデアがSDG 11(国連の目標)に貢献するアイデアを教えてください!

【注意】① 送信を入れる(宛先確認) ② デザインは自由(校内は2番目、3年クラス2番目までの印刷も可(実装も一様)、本文以外にも一部印刷可)

【例】 駅前自転車駐輪場が狭いので人が通りにくい(⇒音がきれいに自動車を止めたくなるアイデアの提案) ※できるだけ他者との意見を参考にしよう

【取組例】 以下のステップでプロジェクトに取り組むことで、市内の問題を特定し、アイデアを提案するプロセスを効果的に進められる(探究的な学習)。

- 問題の特定: 市内を探検し、改善が必要な場所を見つけ(許可を得て)撮影しましょう。(実付近でも数分近くでも可、市内が静かであれば校内も)
- 問題点の特定: 通人の問題の問題点を考えましょう。できれば付近の人の声を録音すると説得力が高まります。
- 解決策の構想: 問題に対する具体的な解決策を考えましょう。改善案やアイデアをいくつか考え、実現可能なものを選びましょう。
- プレゼンの準備・実施: 解決策を、写真や図表を使い、わかりやすく伝えましょう。自信を持って発表し、他者に影響を与えることを目指しましょう。
- 投票・発表: 投票し、優れたアイデアを選びましょう。上位アイデアは福山市や学校関係者に提出され、実際の改善に反映される機会を得ます。

(1) メモ ※別紙収集用アイデアを抽選でみんなのメモ 一度で採納的に整理し本文の形にする

書く前 (書く前に) 何を書こうか(ノート等に) アイデアをメモしよう (内容がよくなる)

書いた後 つづりや文法を見直した? 推敲して(より良くなるよう)書き直した?

(2) 英作文 ※上記のメモをもとに自力で英作文を書く(最初からAIを使用しないこと)

クラス (5 -) No. () 名前 ()

L.3の単元末課題（プロジェクト）の内容

【英語版】

Are you excited for the “Transforming Our City and School” project? We want to make our town and school easier for everyone. Let's share our ideas with interesting presentations and pictures. Our aim is to help create sustainable cities and communities (SDG 11). The best ideas will be sent to Fukuyama City and our school, representing the voices of high school students. This isn't just a task, it's action for real change! This can lead to real changes. It's time to shape the world and make a big difference! We can't wait to hear your amazing ideas to improve our community. Let's work together to make it even better!

【日本語版】

- ① L.3では Transforming Our City and School（町や学校を変える）プロジェクトに取り組んでみましょう！
- ② 街（や学校）に出かけ、改善した方がいい箇所（場所・施設・表示等）を見つけ、皆にとって使いやすくなるアイデアを、画像付きでプレゼンしましょう。
- ③ 優れた提案は、高校生の声として福山市や学校に提出され、現実の改善につながります。自分たちの手で社会に変化を起こしませんか？SDGs 11（街づくり）に貢献するアイデアを期待しています！

【論点整理】 「主体的な社会参画」のきっかけ

L.3 プロジェクト 5つのステップ

以下のステップでプロジェクトに取り組むことで、市内の問題を特定し、アイデアを提案するプロセスを効果的に進められます。

探究と教科との連携

①問題を特定する (Problem Identification and Selection)

生徒は市内を探索し、改善が必要な個所を探し出し(許可を得て)撮影する。
(地域、駅周辺、学校内など、様々な場所が選択肢となる)

②問題点を説明する (Problem Analysis)

生徒は選んだ問題について考え、可能であれば近隣住民の意見を聞き、
いかに困っているか、問題点の説得力を高める。

③解決策を考える (Solution Brainstorming)

具体的な解決策を考え、実現可能なものを選ぶ。

④プレゼン準備・実施する (Presentation Preparation and Delivery)

写真や図表を使用して分かりやすく伝える準備をして発表する。

⑤投票・提出する (Voting and Submission)

アイデアを選び、関係者(福山市や学校関係者)に提出し、
実際の改善に反映される機会を得る。

生徒のスライド例（生徒が発見した市内の問題点）



interrupted

low

wheelchair or stroller tire



fences

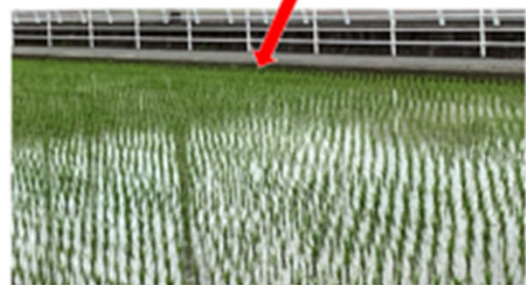
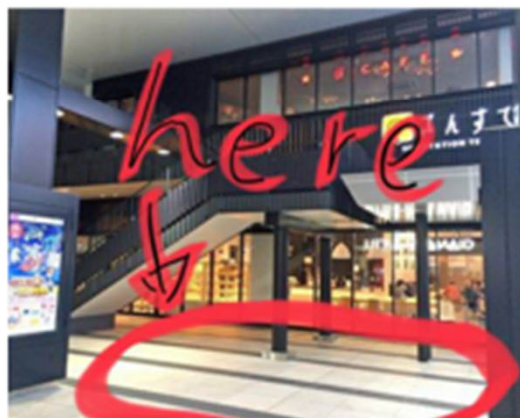
Poor eyesight



People may fall into rice fields.

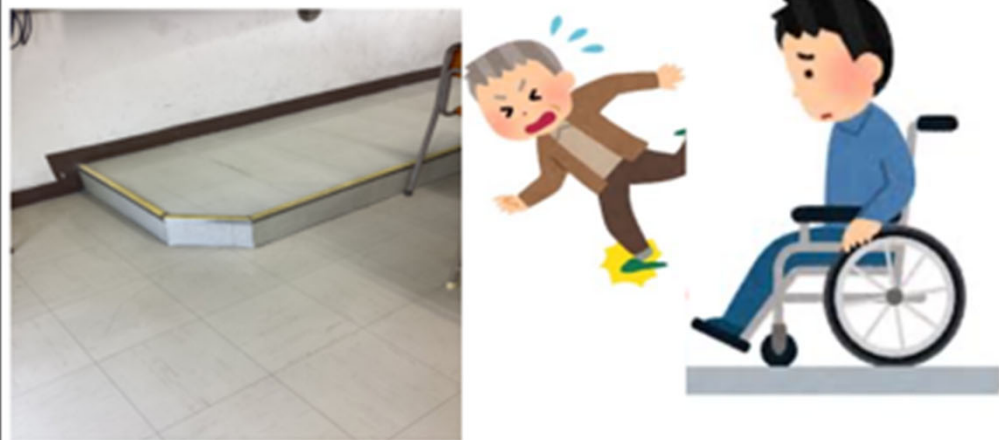
① narrow

colide!!



生徒のスライド例（生徒が発見した校内の問題点）

For example



Handrail

difficult for old people



生徒の英作文例① (イメージの把握用)

Transforming Our City



I suggest this road needs to change.
This road is near my house.
This road has two bad points.



Bad point 1

rough road

→be injured
difficult for people with wheelchair

Change it smooth road

First, It is rough.
You might be injured when you are in a hurry.
It is also too difficult for people with wheelchairs.



Bad point 2

holes

→fall and be injured

Covered with something

Second, it has some holes.
People like children must fall in one and be injured.

Therefore, this road must be changed smoothly.
In addition some holes should be covered with something.

Transforming our city



U-shaped groove lid

The challenge I found is the U-shaped gutter lid.
Look at the size of this hole. It is large enough to fit a wheelchair or stroller tire.

To solve this problem, reduce the size of the hole.

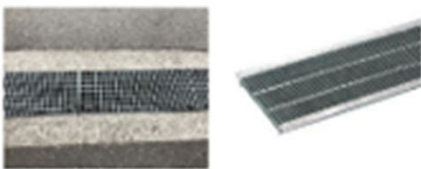


wheelchair or stroller tire



You see things like this all the time in town. The hole became smaller and no longer dangerous.

no longer dangerous



In the textbook, it was said that business opportunities will be created by responding to challenges. The same thing can be said here. If there is this near a nursery school or park, some people may find it difficult to use. But improvements will bring more users.



This place is near Green Heights 2nd Park.

生徒の英作文例② (イメージの把握用)

To be accessible our city

I think public telephone boxes have some problems.that's because I have two reasons.

② difficult
to enter

problem



First,it is difficult to enter inside.

So,I think If we change the position of the door,it is easier to enter inside than before.

① narrow
hot

problem



Second,it is too narrow and hot.

So,I think If we remove the bottom half of the door and drape soundproof the upper half,we can breathe in fresh air. Also it is useful to use this for people with wheelchairs.

If we realize these things,I think we will become more comfortable.

Thank you for reading this.

This

This photo was taken near Kanae Elementary school.

My city transformation project



Many people who pass through the turnstiles are in a hurry

What I think should be improved in the Fukuyama city is the turnstiles.
Many people who pass through the turnstiles are in a hurry.

This makes it difficult for elderly people, pregnant women, people with children, and people with disabilities just to go through that ticket gate.



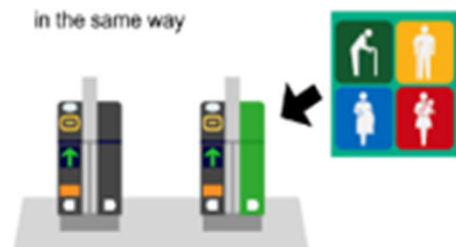
There are priority seats on trains

There are priority seats on trains for these people.

in the same way

So there I thought, why not create priority gates?

We can build turnstiles in the same way.



生徒の英作文（町の変容）



Bingo Akasaka Station has a serious problem. It has only stairs. The reason why this is a problem is that it is not possible for people with a baby in a stroller to go up the stairs. The only way to solve this problem is to install a ramp or an elevator. However these solutions cannot be done immediately, so it is important for us to help the people in need. Just last week I helped a woman with a baby carriage.

英作文（町の変容）

- ・問題点を特定している
（エレベーターがなく、階段のみの現状）
- ・赤ちゃんカートを押している人が上りにくい
- ・対策として、スロープを付けたり、
エレベーターをつける必要がある
が、即座の対策は難しいだろう
- ・そこで、必要な人に対してヘルプ
し合うのが大切だ（現実的な解決策）
- ・先週、そうした人を手助けした。
（解決策の提案で終わらず、行動まで）

本日の流れ

①前提（実践の前に）

②探究型英語授業のイメージ

③探究型英語授業のポイント 1 魅力的な課題づくり

④探究型英語授業のポイント 2 単元構成

⑤生徒の声

疑問・問い

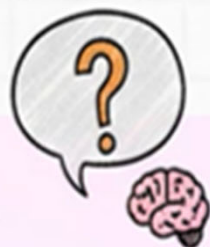


教科書の課題そのままでは、
十分でないことも。

どうしたら生徒が「本当に伝えたい」と
思い、かつ、深い学びを実現する
「自分事&魅力的な課題」になる？

探究の6つのプロセス

探究の6つのプロセス



1. 問いの設定

自分だけの「問い」を立てる



2. 情報収集

問いについて情報を集める



3. 整理・考察

情報を整理し考えを深める



4. 成果物の作成

考えを形にする

5. 発表・共有

成果を発表し共有する



6. 振り返り

活動全体を振り返る



課題の設定4パターン

● 問いを立てる(気づきを疑問文にすること)

=気になることや不思議に思ったことを「なぜ?」「どうして?」

「どうすれば?」という疑問文に変えること

例) なぜ日本に外国人観光客が増えているのか?

➡調べる、考える、伝える、という探究的な学びが始まる。

● 課題の設定=問いを学習テーマにまとめること

① 教師が課題を決める。

例) 水問題は、生活と密接な関係にある。今後、どのような問題が起こり得るか。

② 教師が複数の課題を提示し、生徒が選ぶ。

例) 「水問題の原因は?」「水問題の解決には?」「世界と日本の違いは?」などから選択。

③ 教師が大まかな課題を提示し、生徒が具体化する。

例) 「水問題は生活と密接な関係にある。問題は何で、どんな解決策があるか?」をもとにテーマを絞る。

④ 生徒が自由に課題を設定する。

例) 「水問題」に関して、自分の興味に沿って自由に問いをつくる。

(生徒だけでなく)教師からの課題も大切。
生徒が予期せぬものとの出会いを提供できる。

課題設定のやり方

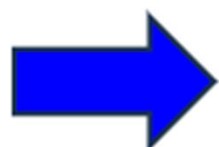
1. 先生が課題(問い)を提示するタイプ

- 探究学習の理想は生徒自身が課題を設定すること
- 教科(単元)では教師による課題提示も決して悪くない
- 生徒では「思いつきにくい深い問い」や「新たな視点」を示し学びを広げ、深めるきっかけを作ることができる

2. テーマ(単元)は同じでも、 生徒が内容を工夫するタイプ —ICEモデルの活用—

工夫① 課題設定は「モクバジヨウ」から

「モクバジヨウ」



「モクバジヨウ相手」

● **目的 (Why)** = 何のために？

例：「相手を誘う」「おススメを伝える」「相談に乗る」

● **場面 (Where)** = どこで？

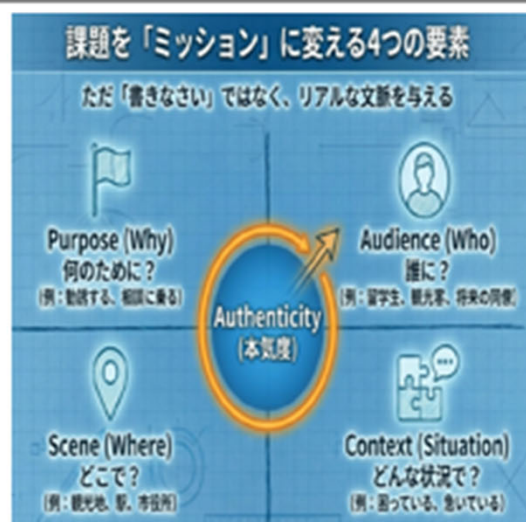
例：「学校」「観光地」「駅」「市役所」

● **状況 (What context)** = どんな背景？

例：「初対面」「困っている」「急いでいる」

● **相手 (Who)** = 誰に？ ※通常は「場面」に相手を含む

例：「留学生」「ALT」「観光客」「将来の同僚」



例)「自分の町を紹介しよう」という課題(中嶋洋一先生)

→「ALTの家族が来日する。あなたに観光プランを相談している・・・」

なぜ
必要？

- ① **場面がリアルに** (どんなときに、なぜ使うのか)
- ② **やる気アップ!** (抽象的な練習よりも実用性あり)
- ③ 場面に応じた **適切な表現力!** (思判表育成)



よい課題に共通する3つの条件とは？

探究がうまく進む課題に共通する条件

①現実（生活・社会）とつながる

生徒がリアルに感じる話題は、納得して取り組める。（観光地や学校行事、日常のやり取りなど）
例：「ALTの家族に観光案内をする」
「市役所に提案を届ける」

②やり取りに目的がある

明確な目的を持つと話す理由と多様さが生まれる。
例）「相手が知らないことを伝える」
「困っている人を助ける」
「解決策を提案する」

③生徒が関心を持てる

生徒が興味をもつ話題なら、「伝えたい」という気持ちをより引き出せる。
例）部活、音楽、ゲーム、将来の進路など

工夫② 思考を深める問いの段階

Bloom's Taxonomy(ブルームの思考の分類)【改訂版】より**深い学び**を目指すヒントになる。
「記憶・理解・応用」から一歩進み、「分析・評価・創造」へと問いを深めることで、探究的な学びにつながる。

【論点整理】
「複雑な課題の解決」

深める
思考

(分析・評価・
創造)

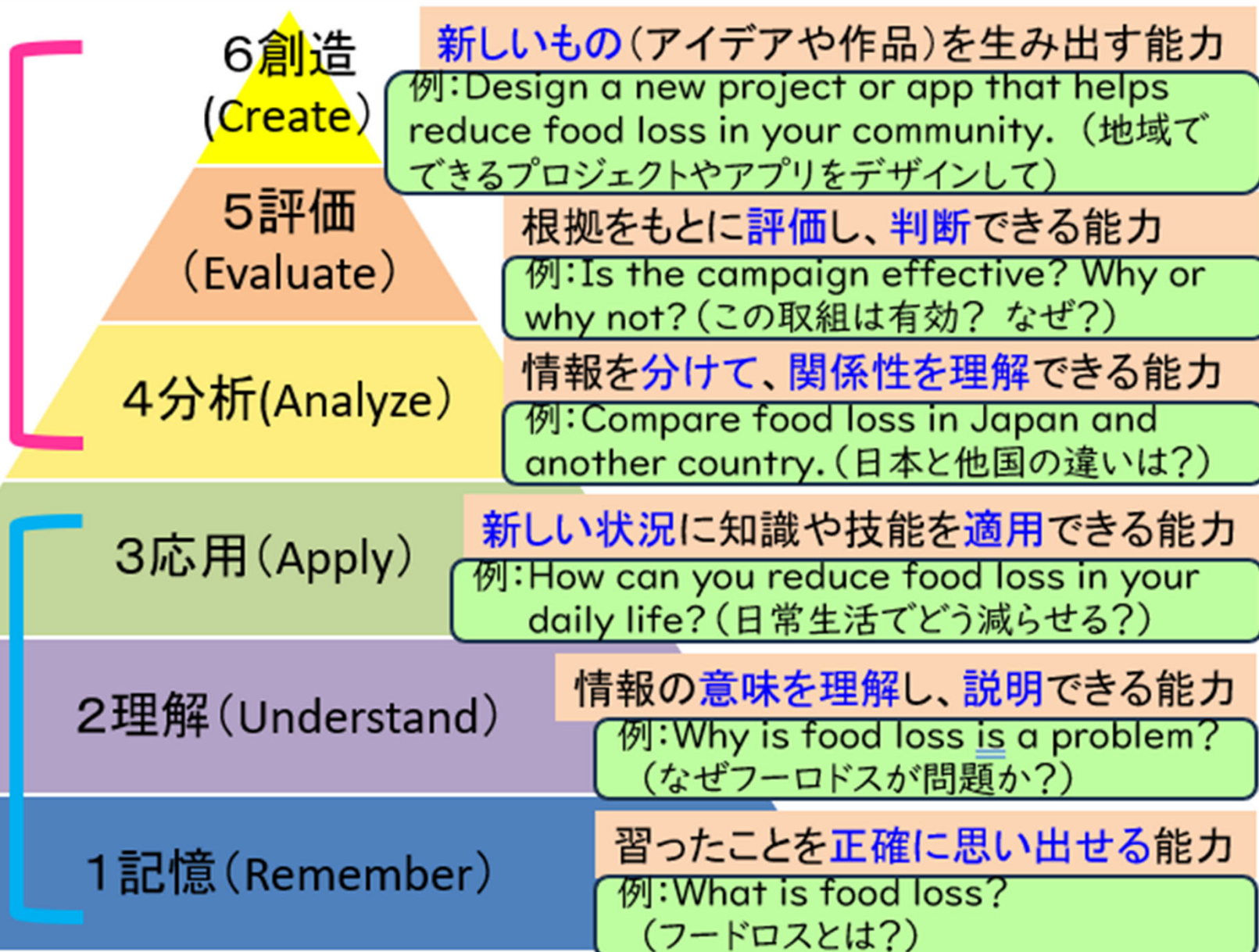
【高次の思考】
※社会で必要



基礎的な
思考

(記憶・理解・
応用)

【低次の思考】
※以前の学校



単元末のお題の考え方 (with the help of ChatGPT)

(生徒が挑戦したくなる) 魅力的な問い作り = タクソノミー×AIの併用が効果的

【プロンプトの例】

あなたは高校1年生を教えるプロの英語教師です。次の内容に関するディスカッションのお題を考えています。お題づくりの条件は次の7つです。

- 1 提示された英文内容を踏まえる
- 2 創造的で多様な内容を話せるお題にする
- 3 **CEFRでA1レベル(3級)**にする ※指定よりもやや難し目になる傾向あり
- 4 簡潔な疑問文にする
- 5 面白くて簡単なものにする
- 6 英文の後ろに()で日本語訳をつける
- 7 お題は、以下のタクソノミーごとに1つずつ作成する。

どのようなお題が考えられますか。

■タクソノミー (Knowledge Dimension):

記憶 (Remember): 学習者が情報を正確に思い出す能力

理解 (Understand): 学習者が情報の意味を理解し、説明できる能力

応用 (Apply): 学習者が新しい状況に知識や技能を適用できる能力

分析 (Analyze): 学習者が情報を部分に分け、それらの関係性を理解できる能力

評価 (Evaluate): 学習者が情報やアイデアを評価し、判断できる能力

創造 (Create): 学習者が新しいアイデアや情報を組み合わせて、オリジナルの作品を作り出す能力

*CEFR:ヨーロッパ共通参照枠

レベル	CEFR	英検
熟練	C2	
	C1	1級
自立	B2	準1級
	B1	2級
基礎	A2	準2級
	A1	3級

単元末のお題の考え方 (AI活用) ①お題づくりの条件入力

あなたはプロの英語教師です。次の英文内容に関するディスカッションのお題を考えています。お題づくりの条件は次の7つです。条件: 1 提示された英文内容を踏まえる 2 創造的で多様な内容を話せるお題にする 3 CEFRでA1レベルにする 4 簡潔な疑問文にする 5 面白くて簡単なものにする 6 英文の後ろに()で日本語訳をつける 7 お題は、以下のタキソミーごとに1つずつ作成する。どのようなお題が考えられますか。

■タキソミー別お題 (A1レベル)

Remember (記憶)

What is a dogu? (土偶とは何ですか?)

Understand (理解)

Why is the Jomon culture important? (なぜ縄文文化は大切ですか?)

Apply (応用)

If you visit Aomori, what will you see? (もし青森に行ったら、何を見るでしょうか?)

Analyze (分析)

How is a dogu different from a cave painting? (土偶と洞窟絵画はどう違いますか?)

Evaluate (評価)

Do you think dogu were toys or for rituals? Why? (土偶はおもちゃだと思いますか、それとも儀式用ですか? なぜですか?)

Create (創造)

Can you make your own "modern dogu" idea? (あなたの「現代の土偶」のアイデアを作れますか?)

単元末のお題の考え方(AI活用) ②自然な場面設定

この課題に取り組むために、生徒が自然に入り込める場面設定を考えてください。
以下の要素を含めて、教育的に有効な提案をしてください。【求める内容】目的
(この活動を通じて何を学ばせたいのか) 場面・状況設定(生徒が想像しやすく、英語を使う必然性がある場面) 相手意識(誰に向けて、どんな目的で書くのか) 育成される力(英語力だけでなく、思考力・表現力・文化理解など) モデル解答(CEFR A1～A2程度、60～80語、英検3級～準2級レベルで)

■ 教育的な提案：土偶制作アクティビティ

1. 目的

- 縄文文化や土偶の特徴を理解する。
- 自分の考えや未来へのメッセージを英語で表現する。
- 文化的な共通点・相違点を考え、異文化理解を深める。

2. 場面・状況設定

「国際文化フェスティバルで展示するための土偶を作る」

- あなたの学校は海外の姉妹校とオンライン交流をしています。
- 文化フェスティバルで、日本文化を紹介することになりました。
- あなたは「未来に伝えるメッセージ入りの土偶」を粘土で作り、それを英語で説明します。

単元末のお題の考え方(AI活用) ③身に付く力

この活動を通して身に付く力を3つあげて。12月にはオーストラリアダウンランズの姉妹校の生徒と交流する予定です。交流では互いの文化を紹介し合う機会があります。「日本(文化・歴史・習慣等)」について伝えましょう。次の目的や条件を参照してください。(相手に伝える価値や動機のあるものにする)

(目的) 日本の歴史・文化・日本人の習慣などについて、聞き手の日本への理解を深める。

この活動を通して身に付く3つの力

1. 異文化理解力と発信力

- 日本の歴史・文化・習慣を「相手にとって価値がある情報」として整理し、自分の言葉で説明できる。
- 相手の文化(例: オーストラリアの先住民の洞窟壁画)と比較することで、文化の違いや共通点に気づき、互いに理解を深める。

2. 思考力と表現力

- 「なぜその文化を選んだのか」「その文化が未来にどんな意味を持つのか」を考えることで、背景や意味を掘り下げられる。
- 粘土の作品と英語の説明を組み合わせることで、抽象的な考えを具体的に表現する力が高まる。

3. 英語での実践的コミュニケーション力

- 簡単な英語を使って、自分の作品や文化を相手に紹介する経験ができる。
- 「伝わる英語」を意識し、シンプルでも相手にとって興味を持てる表現を工夫する。
- 国際交流の場で自信をもって発言できる基盤を作る。

このプロジェクトについて英語でかっこいいお題をつけて。

英語タイトル案

1. **“Voices from Japan: Sharing Culture through Dogu”**
(日本の声 : 土偶を通して文化を共有する)
2. **“Bridging Cultures: Japan Meets Downlands”**
(文化の架け橋 : 日本とダウンランズの出会い)
3. **“Living Heritage: Telling Japan’s Story in Clay”**
(生きる遺産 : 粘土で語る日本の物語)
4. **“Clay Messengers: Expressing Japan to the World”**
(粘土の使者 : 日本を世界に伝える)
5. **“Beyond Time: Connecting with Japan’s Spirit”**
(時を超えて : 日本の精神とつながる)

モデル英文を作成して。

モデル英文 (約74語)

My Dogu and Japanese Culture

Hello, friends. Today I will show you my clay dogu.

It has big eyes and a round body. The big eyes mean "look to the future." The round body means "good health."

In the Jomon period, people made dogu for life, health, and nature.

I chose dogu because it is mysterious and very unique in Japanese history.

My message is "peace for all people."

I hope you enjoy my dogu and learn about Japanese culture. Thank you.

単元末のお題の考え方(AI活用) ⑥校正

校正して。生徒がやる気が出るように。12月にはオーストラリアダウンランズの姉妹校の生徒と交流する予定です。交流では互いの文化を紹介し合う機会があります。「日本(文化・歴史・習慣等)」について伝えましょう。次の目的や条件を参照してください。(相手に伝える価値や動機のあるものにする) (目的) 日本の歴史・文化・日本人の習慣などについて、聞き手の日本への理解を深める。(条件) ①紹介したいものを明確にする。②選んだ理由を明確にする。・相手がそれをする事で、日本に対するどのような理解が促されるのか。) ③選んだものについて具体的に説明する。・歴史的事実や文化的情報が正確であるか。・表面

校正版 (やる気が出るバージョン)

12月には、オーストラリア・ダウンランズの姉妹校の生徒と交流します。

そのとき、互いの文化を紹介し合う機会があります。

みなさんは「日本(文化・歴史・習慣など)」について英語で伝えてみましょう。

活動の目的

日本の歴史や文化、日本人の習慣について紹介し、相手が日本をより深く理解できるようにすることです。「日本っておもしろい!」と思ってもらえるように工夫しましょう。

活動の条件

1. 紹介するものをはっきり決めること。
2. なぜそれを選んだのか理由を説明すること。

・その文化を知ると、相手は日本についてどんな理解を深められるのかを考えましょう。

単元末のお題の考え方(AI活用) ⑦最終版

【自由英作文シート(for L.4)】

“Bridging Cultures: Japan Meets Downlands” (文化の架け橋:日本とダウンランズの出会い)

(1) 本単元の Mission (お題)

12月に、オーストラリア・ダウンランズの姉妹校の生徒(21名)が本校にやってきました。そのとき、互いの文化を紹介し合う機会があります。みなさんは「日本(文化・歴史・習慣など)」について紹介します。その準備・リハをしましょう。

(目的) 日本の歴史や文化、日本人の習慣について紹介し、相手が「日本は面白い!」「深い!」と思えるようにする。

(条件) ①紹介するものをはっきり決める。②なぜそれを選んだのか理由を説明する。

・その文化を知ること、相手が日本についてどんな理解を深められるのかを考えましょう。

③選んだものを具体的に説明すること。

・文化情報を正しく伝える。・表面的な説明だけでなく、相手文化と比較したり、背景や意味も触れましょう。

(ポイント)・多様性を大切に、できるだけ他の人とテーマが重ならないようにしましょう。

・自分が選んだ文化を象徴した土偶を粘土(百均)や色紙で作り、発表で紹介できるとさらにボーナス!

(身に付く力)

↑土偶の特徴も調べると面白い。

- 異文化理解力(相手の文化と比較しながら、日本文化を「価値ある情報」として整理・発信できる力)
- 思考力と表現力(文化を選んだ理由や意味を考え、作品と説明を組み合わせ、深く表現する力)
- 英語コミュニケーション力(国際交流の場で、自分の作品や文化を自信をもって伝える力)

「誰に(聞き手)、なぜ、何を(個人的な視点)」伝えるか。

→「**英語力**」+「**思考力や表現力**」、「**社会とつながる力**」を育む

疑問・問い



生徒がノラナイ・イケテナイ課題を
イケテル・多様性が
生まれる課題に工夫した例は？

旅行・観光 ★ 難度 I

【Before (教科書の課題)】

What place did you visit?

(あなたはどこに旅行に行きましたか?)



【画像】 上山撮影(福山城)

【After】 ※実際の課題指示文を要約

• 県内外への自分の旅行経験をふまえ、福山市を観光都市として盛り上げる提案を英語で行いましょう。 **観光課と観光チームに届けます。**

• ①どこに誰と行ったか、②その旅行先の魅力、③その魅力を応用して福山や尾道をどう盛り上げたいかを含めてください。

• 工夫: Localize + Differentiate

【論点整理】 「社会参画」

生徒70名の回答テーマ別人数・割合

①食文化・ご当地グルメ:14名(20.0%)

アイデアを探究チームに提供

食べ物パンフレットで集客(香川のうどん巡りパンフを参考に、バラやお好み焼きなどのパンフを作って観光客に配る)【女子】

②自然・花(バラ)を活かす:9名(12.9%)

倉敷の町並みとバラ公園(倉敷の古い町並みを参考に、観光客にバラ公園を紹介して美しい景色を楽しんでもらう)【女子】

③歴史・文化の発信:7名(10.0%)

歴史体験アトラクション(USJを参考に、武将ごっこや安全な刀・火縄銃体験で歴史を楽しむ)【男子】

④観光施設・イベント:7名(10.0%)

体験型施設(自動車時計博物館を参考に、体験できる観光施設を作る)【女子】

⑤地域資源・特産品活用:5名(7.1%)

福山デニムを発信(児島デニムを参考に、福山の綿を活かしたデニム製品を紹介する)【女子】

魅力を探す探究学習(今は分かっていないが、探究の時間で福山の魅力を見つきたい)【男子】

アート ★★★ 難度3

【Before】

What kind of art do you like?

(どんなアートが好きですか?)



【After】

• STEAM分野 (Science / Technology / Engineering / Arts / Mathematics)の中から1つを選び、「人や社会、地球のためにできること」を込めたアートを描き、その意味を英語で説明しましょう。

• 例: 絶滅危惧動物、平和ロボット、文化をつなぐ絵、パターンアート、地域の壁画など (※美術科・ユネスコと連携)

• 工夫: Localize + Personalize

実際に生徒作品をユネスコに届ける (返信あり)

Art Project



by Hiroshima High School Students

In our first-year high school English class, we learned about Kensuke Miyazaki's activities to encourage people around the world through art. Based on what we learned, our students from Hiroshima created artworks expressing "how they would contribute to world peace and the future through art." Please take a look.

高校1年生の英語の授業で、アートを通して世界の人々を元気づけるミヤザケンスケ氏の活動について学びました。その学びをもとに、広島県の生徒たちが「自分たちならどのようなアートで世界平和や未来に貢献できるか」を表現した作品です。ぜひご覧ください。

This art project has six themes. Each student chose one area from STEAM and created an artwork showing what they can do for people, society, or the planet.

このアートプロジェクトには6つのテーマがあります。生徒たちはSTEAMの中から1つを選び、「人や社会、地球のためにできること」を込めた作品を描きました。

1 Science (S): Draw art that encourages people to care for nature (e.g., endangered animals, forests, clean oceans, climate change).

▶科学 (S): 自然を大切にしたい気持ちを表す絵 (例: 絶滅危惧動物、森、きれいな海、気候変動)

2 Technology (T): Imagine robots or machines that help people and promote peace (e.g., peace robots, hospital machines).

▶技術 (T): 人や平和を助けるロボットや機械 (例: 平和ロボット、病院で働く機械)

3 Engineering (E): Design fun classrooms or useful buildings using art and color.

▶工学 (E): アートや色を使って楽しい教室や便利な建物をデザイン

4 Arts (A): Create art that connects people from different countries and cultures (e.g., flags, hearts, empathy art).

▶芸術 (A): 違う国や文化の人をつなぐ絵 (例: 国旗、ハート、共感アート)

5 Mathematics (M): Use shapes and patterns to make beautiful art (e.g., circles, triangles, symmetry, lines).

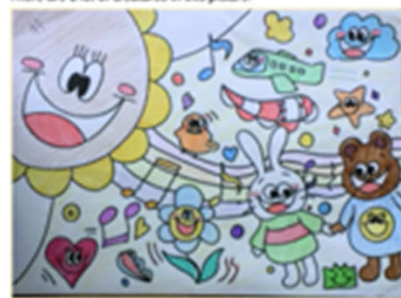
▶数学 (M): 形やパターンを使った美しいアート (例: 丸、三角、対称、線)

6 STEAM (All): Propose art that benefits your community or school (e.g., mural ideas that uplift people, like Mr. Miyazaki's work).

▶STEAM 総合: まちや学校のためになるアート (例: 宮崎氏のように元気を与える壁画)

The Power of Music

STEAM
There are a lot of creatures in this picture.



Highlight ① "their face"

They are all **laughing**, and there are some **musical notes** in this picture because I believe music makes people **smile**. I drew them enjoying **singing or listening to music** with other people.

Highlight ② "rabbit and bear"

They are **shaking hands**. I believe music has the power to **bring people together**, even **without language**.

I want to tell you that music has the power to make people happy.

The Yarn That Brings Happiness

STEAM



In this picture, a **cat** is knitting the Earth into a heart shape, and animals are gathered around it. I want to express that everyone in the world is **connected, just like a yarn**.

The picture includes not only small animals, but also a **wolf** and a **bear**. I hope everyone can **laugh together** like this, regardless of who they are.

I also painted **yellow roses** because in the language of flowers, they symbolize "**happiness**". I hope this picture helps people feel **happier and more connected** to each other.

I want **people to smile** when they see this picture!

We can become "Super Santa Claus"!

STEAM



I painted Santa Claus, sunflowers, a city, the sun and musical notes.

Actually, I painted the background using various shapes. Santa Claus is someone who gives us presents when we are not looking, and sunflowers represent a positive mood. I want to show you that "there are people who quietly give us strength while we are not looking, and those people can make the world super happy."

I believe everyone has the potential to be like that.

I want you to know that "we are all helping each other" and "each of us has a special super power."

CHERISH LIVING THINGS

NO.1 SCIENCE

What do you think when you hear the words "endangered animals"?

Elephants, lions, tigers, sharks, etc. There are so many endangered animals on earth. When I heard this, I thought of wolves. Because I like wolves but I've never seen wolves.

Please look at this picture. This is a picture I drew.

The wolf draws use a variety of colors. I draw it with the desire to cherish all living things. It also embodies the idea of valuing our individuality. There are many different types of living things, and they all have different ways of living and thinking.

That's why people are all different. So, I think that caring for living things = cherishing one's own individuality. That's why we should cherish living things.



【Before (教科書の課題)】

How can we deal with e-waste problems?
(電子廃棄物の問題にどう対処する?)



【画像】 AI生成

【After】 ※実際の課題指示文を要約

• STEAM型探究として、次の視点から1つ選び、e-wasteの現実的な解決策を考えましょう。

- ① 科学 (環境への影響調査)
 - ② 技術 (リサイクル技術の提案)
 - ③ 工学 (修理しやすい製品デザイン)
 - ④ 芸術 (啓発キャンペーン)
 - ⑤ 数学 (データ分析)
- 意見を各所に届けます。

• 工夫: Localize + 多視点化

【論点整理】 「複雑な課題の解決」

1分間プレゼン (Technology) E-Wasteにどう対処するか？

【内容】クーポンや補助金、店同士が協力して寄りよい循環型社会を目指す

②Technology

“E-waste app” EEFP app

②Technology

In recent years...



Then I suggest “E-waste app”, it can be called EEFP app. People take their e-waste to the exclusive collection places and receive a coupon.

“E-waste app” EEFP app



The exclusive collection places that received e-waste partner with recycled shop and make new recycled products. In doing so, government subsidies are provided, so coupons can be available.



When people buy electrical products, for new one, the discount is no change, but recycled one, the discount is doubled.



Therefore, this work lead to good cycle for good environment.

2024年(令和6年)10月7日(月曜日) 第XXXXXX号

社会とつながる学びに

日本経済新聞

10月7日

月曜日

EV電池レアノクル再利用

など

本日の流れ

①前提（実践の前に）

②探究型英語授業のイメージ

③探究型英語授業のポイント 1 魅力的な課題づくり

④探究型英語授業のポイント 2 単元構成

⑤生徒の声

授業+家庭学習で「自己調整学習」の視点でゴールまで

【自己調整学習】(白杉, 2025)

【論点整理】「授業・単元のまとめり」

教師の指示に従うだけでなく、生徒が自らの学びの「見通し」(目標や計画)を持ち、「実行」し、「振り返り」、次の学習への意欲や見通しを自己調整していく学習。



STEP 1 (1時間目)
ゴール共有



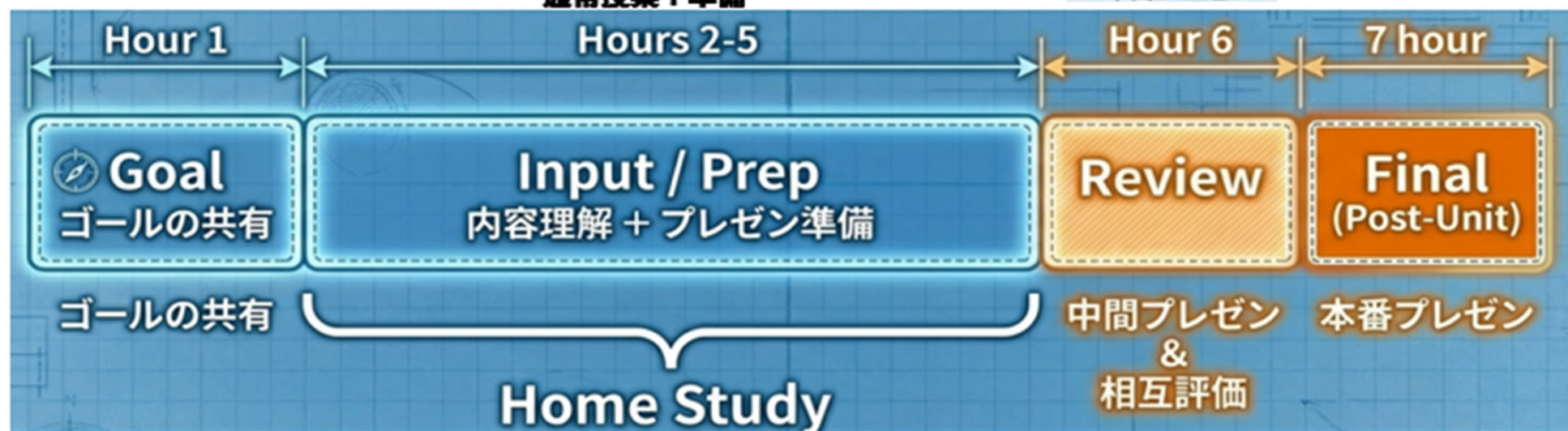
STEP 2 (2~5時間目)
通常授業+準備



STEP 3 (6時間目)
中間プレゼン



STEP 4 (後日)
本番プレゼン



予見段階 (Forethought)
ゴールを知り、見通しを持つ

遂行段階 (Performance)
計画的に準備・練習・中間発表

省察段階 (Self-Reflection)
結果を振り返り、修正する

通し読み+リフレク
シートで単元末課
題(ゴール)を知る

- 授業: 教科書学習に関して、毎回1分リテリング
- 家庭: 調査や原稿作成
- 単元末に「中間プレゼン」(良い点・課題の振り返り)

修正版プレゼン
単元全体振り返り
(内容・方法)

「自己調整型の主体的な学習課題」(溝上, 2025: p.5) ★第Ⅱ層(主体的な学習三層のうち)
一学習目標や学習方略、メタ認知を用いるなどして、自身を方向付けたり調整したりして課題に取り組む。

(冒頭でゴールを示し、家庭学習と組み合わせてプレゼンに導く)

時	学習活動
1	<p>【単元通し読み】 1単元を読み通す。</p> <p>①通し読みをする (時間を計ってTF等)</p> <p>②100字要約する (要約シート)</p> <p>③Reflection Sheetで単元課題の確認</p>
2 3 4 5	<p>【1セッション・1時間でスキルアップ】</p> <p>「本文プリント」を活用</p> <p>※授業：1分間リテリング (練習や共有)</p> <p>※家庭：調査や原稿作成</p>
6	<p>【まとめ (中間プレゼン)】</p> <p>①レッスンの単語テスト (単語テストシート)</p> <p>②2分間Short Presentation (毎時間のSPまとめ)</p> <p>③Reflection Sheetで中間評価 (本番に向けて改善)</p> <p>④サブノートの残り</p>
後日	<p>○筆記テスト ○パフォーマンステスト (実技：1分間)</p> <p>○再テスト (復習と再テストで学年全員の底上げ)</p>

STEP 1 (1時間目)
ゴール共有STEP 2 (2~5時間目)
通電授業+準備STEP 3 (6時間目)
中間プレゼンSTEP 4 (後日)
本番プレゼン

単元

― 時間目

通し読み +

単元課題の把握

① 通し読み (サブノートTF) *目的: 速読力

Lesson 1

Lost in Translation

本文通し読みページ

When you study English, you may be tempted to translate English into Japanese. A professor of translation studies from Canada gives a warning.

your
under
you s
time y
questi
expre
corres
templ
told th
meant
"Wab

quiet sadness and the encouragement of simplicity." I felt like I was lost in a deep cloud. The concept was too complex for me to understand. But years later, as I sat on the wooden veranda of a temple, looking out at the garden, I thought I finally had a sense of *wabi-sabi*.

This episode shows that it is often very difficult, if not impossible, to translate some concepts from one language into another. This is true not only for an abstract concept, but also for commonly used expressions in Japanese. How about *mottainai*, *shikataganai*, *otsukaresama*, *itadakimasu*, and *itsumo osewa ni natteimasu*? See if you can find equivalent expressions in English, or ask your bilingual friends if they are around.

Now, let us go beyond English and Japanese, and look at some of the world's other languages. According to some linguists, there are over 7,000 languages in the world, so what I'm going to show is just a tiny sample of words we can't translate easily into English or Japanese.

Swedish offers an interesting example, as shown on Slide 1. This word (*resfeber*) means "the

restless beat of a traveler's heart before the journey begins; feelings of being nervous and excited."

Here is an example from the Dutch language. Look at Slide 2. This word (*gezellig*) means "cozy; a positive warm feeling you have when you are with loved ones." It's amazing that one word can describe this kind of feeling!

Slide 3 shows an example from Finnish. This word (*poronkusema*) means "the distance a reindeer can comfortably travel before taking a break."

Slide 4 shows an example from Arabic. This word (*gurfa*) means "the amount of water that can

Lastly, may I give you a small piece of advice? Translation is sometimes used to make sure you have understood the English text you are reading, but remember that there might be something lost in translation.

TF Questions

1. All Japanese expressions can be easily translated into English. ()
2. The speaker understood what wabi-sabi meant by consulting a dictionary. ()
3. The speaker gives examples of some words that conceptualize the world in different ways. ()
4. You only have to study words and rules in order to learn English. ()
5. We shouldn't forget that something might be lost in translation. ()

WPM = 752語+ () 秒×60 =

WPM (words per minute)は、あなたが1分間に読めた語数です。課ごとに記録して、変化を比べてみましょう。

概要理解後に最終課題（ミニ・プロジェクト）を把握

（1）本単元のMission（お題）

■ **17のお題:** Imagine you are helping in a country after a conflict. What kind of project would you create to help the people?

（紛争後の国で助ける仕事をするとしたら、どんなプロジェクトを作りますか？）80~100語

皆さん、この課題では「紛争後の国で人々を助けるためにどんなプロジェクトを作るか」というテーマに取り組みます。本単元で読んだように、世界中には、戦争や紛争が終わった後でも、多くの人々が支援を必要としている国々があります。ここで、私たちが考えるべきことは、どうすればそのような人たちの生活を改善し、未来を明るくする手助けができるかです。

この課題に取り組むことで、皆さんは創造力を発揮し、社会に貢献できるアイデアを生み出す力を養うことができます。また、他の文化や状況を理解し、共感する能力も身につけることができます。さらに、これからの世界でどのように役立つ行動ができるかを考えるきっかけにもなります。自分がどんなプロジェクトを作り、どのように人々の生活をサポートできるかを自由に想像してみましょう。それによって、自分自身の中にあるアイデアを見つけ、問題解決能力を伸ばすことができます。

【一言】 できれば瀬谷さんの取組を入れて関連させてみましょう（深まる）。紛争後にどんな支援が必要か、リサーチしてみましょう。

【例】 If I were helping in a country after a conflict, I would make a project to teach people new skills, especially women and young people. Like Seya Rumiko's work in Rwanda, I think teaching skills like sewing or farming can help people support themselves. My project would focus on learning and helping people become independent, so they can build their lives again and help their communities, just as Seya did with her projects for former soldiers.

③単元の目標設定 (学習内容・プレゼン方法)

【L.7】 Reflection Sheet (学習の見直し振り返りシート) 【重要】

(1) 目的 ※本 Reflection Sheet の目的をまずおさえてよう。

次の①と②を通して「学びに向かう力」(主体的に学習に取り組む態度)を育む。特に英語習得に必要な「(実用)コミュニケーション」に加え、「自己調整」(自分の学習を工夫・調整する)と「粘り強さ」(粘り強く取り組む)を発揮できるようになる。

① 単元目標を達成するプランを練る。(主体的・意図的に授業内外の学習に取り組み、確実に成長するための)

② 目標の達成状況と、身に付いた力を振り返って言語化する。(言語化できるとその質・能力が身に付きやすい)

(2) 単元の目標 (全員共通) ※単元の「最後」にできることを、単元の「最初」に確認しよう(山頂を見定めて進む)

	L.7 Only a Camera Lens between Us (私たちの間にあるのはカメラのレンズだけ) 【平和・国際貢献/雑誌記事】
文法	(S1) □have no choice but to (当然) □couldn't bring themselves to (躊躇) (S3) □plays an important part in (役割) □be convinced that (確信) (S4) □it is up to (〜次第)
目標	Imagine you are helping in a country after a conflict. What kind of project would you create to help the people? (紛争後の国で助ける仕事をするとしたら、どんなプロジェクトを作りますか?)
評価観点	① (語数) 1分間で「80語以上」を目指す(プレゼン)。② (正確さ) できるだけ正確な発音・文法で話す。 ③ (内容) 「本文の内容」(部分要約)だけでなく、本文以外の「新情報」(※※※※※※※※※※※※※※※※)を入れる。 ※聞いた人が「確かに!」「なるほど!」となるような、「共感性」や「独自性」(創造性)のある内容を目指す。

自己記入	学習内容	プレゼン方法の目標・改善 ※英語プレゼンスキル100参照
	例) ●●について検索し、課題解決策を調べる。	例) 自宅でタブレットを使い練習を録音し改善点を特定する

(3) 中間振り返り (単元のまとめ) ① プレゼンをペアで動画撮影し合う。② 振り返る。③ 動画を提出する。2分()語

	学習内容 (2行以上、できるだけ具体的に)	プレゼン方法 (2行以上、できるだけ具体的に)
Good	□ 目標に照らして良かった点 (うまくできるようになったことや進んだことなど) は? (具体的に)	
Bad + Reason	□ 目標達成に向けての課題点 (できていないこと、難しいこと) とその理由 は? (具体的に)	
Next	□ (課題点やその理由を生かして) うまくできるようになるために今後どのような工夫ができてそう?	

※最終振り返り(パフォーマンステスト)は、別紙に記入(上記(2)(3)と関連付ける)。以下の□にできたら✓。

Reading	Listening	Speaking (やり取り・発表) / Writing
□【雑誌記事】 記事理解に携わる理由を、 1. 手紙の活動について読むことができ る。	□ 聞き取った生きたメッセージにつ いての会話を聞き取ることができ る。	□ 自分の人生に影響を与えたいものについて話し合うことができる。 □ 紛争を解決することが可能かどうか話し合うことができる。 □ 世界平和のために何ができるか、考えを述べることができる。

クラス(6ー) No.() 名前()

英語プレゼンスキル100

英語プレゼンスキル100 (すべてを同時には使えないが、いろいろ試して自分が使えるスキルを増やそう)

- No.1-16 文章「内容」の工夫
- No.17-33 文章「構成」の工夫
- No.34-46 文章「表現」の工夫
- No.47-52 「声」の工夫 (言語コミュニケーション)
- No.53-58 「ボディランゲージ」の工夫 (非言語コミュニケーション)
- No.59-73 聞き手への「サービス精神」(分かりやすく、巻き込む、反応)
- No.74-77 「質疑応答」への対応
- No.78-91 リテリングやプレゼンへの「心構え」
- No.92-100 リテリングやプレゼンの「事前準備」



【□の使い方の例】1マス目:すでにトライ済みに○/2マス目以降はトライしたものに○/トライしたら目付記入 など

1 文章「内容」の工夫

(1) 【基本】 分かりやすい内容にする

1	難しすぎない「シンプルな英文」にしたか?			
2	「英文は短め」にしたか? (1文が長すぎない)			
3	聞き手は「内容を知らない」前提で説明したか? (要点をおさえる)			
(2) 【基本】 最初にテーマや結論を伝える				
4	最初に「トピック」を伝えてわかりやすかったか? (I'm going to talk about〜など)			
5	「結論先行」で話したか? (トピックセンテンスで大切な点を先に伝える)			
6	「問いかけ」(Do you〜?)からはじめて興味をもってもらう方法も試したか?			

(3) 【基本】 本文を要約する (基本)

7	要約は大事な部分を「短く」まとめたか? (ポイントやメッセージなどに絞る)			
8	本文の「キーワード」を網羅したか?			
9	「大切な文」や「重要フレーズ」を抽出して使ったか?			
10	一部だけでなく「全セクションのバランス」を大切にしたらか?			

(4) 【基本発展】 原稿を読まない・原稿にとらわれすぎない (即興っぽく話す)

11	事前に原稿を作っても本番は「読まなかった」か? (何も見ないで言う)			
12	原稿を作っても「話している」ように聞こえたか? (読まれると興味を失う)			
13	事前に考えていなかった部分は「即興」で話したか? (アドリブでも話せるように)			

(5) 【発展】 話を楽しく・魅力的にする

14	「最初のつかみ」や「最後の締め方」を魅力的になるように工夫したか?			
15	最後に「オチ」をつけたか? (どうやるかはそのときどきに考える)			
16	例に「相手の関心」や「意外性」のあるもの (キャラクターなど) を挿入し面白くしたか?			





単元

2～5時間目

1セクション・1時間
(本文を用いてスキルアップ)

単元の流れ

(冒頭でゴールを示し、家庭学習と組み合わせてプレゼンに導く)

時	学習活動	
1	<p>【単元通し読み】 単元を読み通す。</p> <ul style="list-style-type: none">①通し読みをする (時間を計ってTF等)②100字要約する (要約シート)③Reflection Sheetで単元課題の確認	 <p>STEP 1 (1時間目) ゴール共有</p>
2 3 4 5	<p>【1セクション・1時間でスキルアップ】</p> <p>「本文プリント」を活用</p> <ul style="list-style-type: none">※授業：1分間リテリング (練習や共有)※家庭：調査や原稿作成	 <p>STEP 2 (2~5時間目) 通達授業+準備</p>
6	<p>【まとめ (中間プレゼン)】</p> <ul style="list-style-type: none">①レッスンの単語テスト (単語テストシート)②2分間Short Presentation (毎時間のSPまとめ)③Reflection Sheetで中間評価 (本番に向けて改善)④サブノートの残り	 <p>STEP 3 (6時間目) 中間プレゼン</p>
後日	<ul style="list-style-type: none">○筆記テスト○パフォーマンステスト (実技：1分間)○再テスト (復習と再テストで学年全員の底上げ)	 <p>STEP 4 (後日) 本番プレゼン</p>



單元

6 時間目

まとめ

単元の流れ

(冒頭でゴールを示し、家庭学習と組み合わせてプレゼンに導く)

時	学習活動	
1	<p>【単元通し読み】 単元を読み通す。</p> <ul style="list-style-type: none">①通し読みをする (時間を計ってTF等)②100字要約する (要約シート)③Reflection Sheetで単元課題の確認	 <p>STEP 1 (1時間目) ゴール共有</p>
2 3 4 5	<p>【1セクション・1時間でスキルアップ】</p> <p>「本文プリント」を活用</p> <ul style="list-style-type: none">※授業：1分間リテリング (練習や共有)※家庭：調査や原稿作成	 <p>STEP 2 (2~5時間目) 通達授業+準備</p>
6	<p>【まとめ (中間プレゼン)】</p> <ul style="list-style-type: none">①レッスンの単語テスト (単語テストシート)②2分間Short Presentation (毎時間のSPまとめ)③Reflection Sheetで中間評価 (本番に向けて改善)④サブノートの残り	 <p>STEP 3 (6時間目) 中間プレゼン</p>
後日	<ul style="list-style-type: none">○筆記テスト○パフォーマンステスト (実技：1分間)○再テスト (復習と再テストで学年全員の底上げ)	 <p>STEP 4 (後日) 本番プレゼン</p>

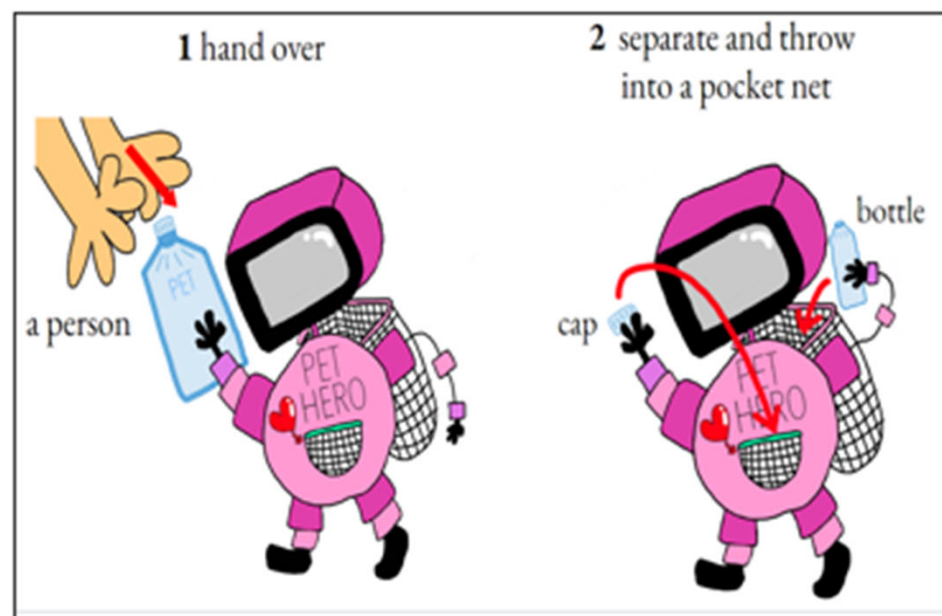
ペアでタブレットで撮影

単元末は各自の自由英作文をもとにペアで撮影し合う。提出・振り返り



生徒が考案したWeak Robotsの発明 (PET HERO)

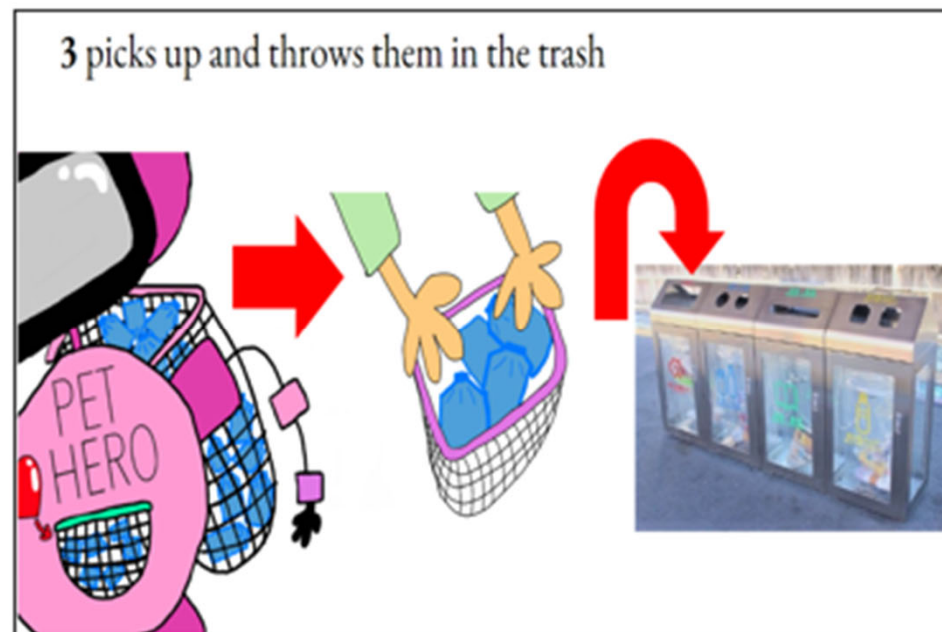
教科書テーマ: Weak Robots × 社会課題「ゴミ分別」



① Mission:

現在の社会課題に対して、人間の補助が必要な Weak Robotsで発明せよ

② 生徒の発明: PET HERO



③ Concept:

人をお願いして分別を手伝ってもらう「弱いロボット」

④ Result:

知識の習得に加えて、創造性と提案力が育つ。

生徒が考案したWeak Robots (PET HERO) のスクリプト

I propose a weak robot called "PET HERO." I came up with this idea when I noticed that plastic bottles were not well separated at the station.

This robot will contribute to solving the social problem of garbage separation, and it waits around trash cans at the station. When a person hands it a plastic bottle, it separates the bottle from the cap and put them into a pocket net on its body.

When its pockets are full, it waits in front of the trash can. If a person picks up the pocket net and throws it in the trash, the robot smiles and says "Thank you!"

By cooperating with each other, robots and humans can create an eco-friendly environment. Thus, PET HERO not only makes the environment better, but also strengthens the relationship between robots and humans.

「動画撮影」でメタ認知を促す（自己調整力）



① 1分間／2分間の
ショート・プレゼン
（ペアで互いに端末撮影）

② イヤホンで視聴し、
客観的に振り返る

自分の姿を客観視することで、
自ら修正点に気づく
【自己調整】

前よりは大きい声で言うことができたと思ったけれど、動画で確認すると声
が全然聞こえていなかったの、次こそは相手を思って声を出そうと思う。

また、動画で確認すると、文法的に間違っているところも多々あったので、
簡単な単語や文法を使って正確なスピーチをしたい。

次の学びにつなげる振り返り (GBRN)

Good

良かった点は？

Bad

うまくいかなかった点は？

中間プレゼンで「失敗」を経験し、
本番で修正する。

Reason

その理由は？(分析)

Next

次にどう活かす？(行動目標)

次の学びにつなげる振り返り (GBRN)

(3) 中間振り返り (単元のまとめ) ①プレゼンをペアで動画撮影し合う。②振り返る。③動画を提出する。2分 (159) 語

	学習内容 (2行以上, できるだけ具体的に)	プレゼンの方法 (2行以上, できるだけ具体的に)
	<input type="checkbox"/> <u>目標に照らして良かった点</u> (うまくできるようになったことや進んだことなど) は? (具体的に)	
Good	将来の人間とロボットの関係について考えることについて。自動で移動するロボットが「自分で動く」と考えれば、それこそ背負った高い判断力をもつだろうと気がついた。ロボットは常に人に従うように作るべき(人間中心)	自分で weak robot を制作して。FT-1 (170) を使った。社会問題と適用してロボットをつくらせ。映画馬場を参考にしたい。使用目的。面でも考えた。スライドのフォントの工夫。
	<input type="checkbox"/> <u>目標達成に向けての課題点</u> (できていないこと, 難しいこと) とその理由は? (具体的に)	
Bad + Reason	<u>結局自律移動と両立するロボットはあり得るか?</u> という問いに答えがなかった。	文が中心で、2分間の時間と、お話をして。毎秒の長さがある。
	<input type="checkbox"/> (課題点やその理由を生かして) うまくできるようになるために今後どのような工夫ができそう?	
Next	レッソンの内容、本質的だと考え、自分の考えに活用する。深く読みとって、自分の考えに活用する。	優先順位をどうに文章構成と考える。表情管理を。

【論点整理】「学習改善に生かす評価」(中間発表でのフィードバック、振り返り矢印本番前の改善チャンスで「もっとよくしたい!」を引き出す)

後日

パフォーマンス
テスト

評価(3観点)

【論点整理】「主対深」

点	知識・技能 【正確さ】	思・判・表 【内容】	主体1 【語数】	主体2 【巻込・グッズ】
10	発音・文法 ミス 0~1	ICEモデルのE (提案・創造)	5 80語以上	5 グッズ◎ 巻き込み3~
8	ミス ~2	ICEのC (比較・関連)	4 60~79語	4 グッズ○ 巻き込み3~
6	ミス 3~4	ICEのI (要約・説明) 【要約】 自分語	3 40~59語	3 グッズ○ 巻き込み 2
4	ミス 5~6	【要約】 本文まま	2 20~39語	2 グッズなし
2	ミス 7~	発話している	1 1~19語	1 説明

【巻き込みの工夫例】(デリバリー)

問いかけ(疑問文)、クイズ、アイコンタクト、ジェスチャー …

【まとめ】これまでの授業の何をどう変える？—考え方のヒント

従来型 vs 探究型：英語授業アップデート一覧表

項目	従来型授業【Before】	探究型英語授業【After】	論点整理
学ぶ目的	<u>「正解探し」</u> の学び。(設問に正しく答えることがゴール)	<u>「自分なりの答えを創る」</u> 学び。(問いを起点に情報を集め、新たな見解や解決策を導く)	「主体的・対話的で深い学び」
課題設定	<u>目的や相手が不明確で漠然としたテーマ</u> 。(「日本文化を紹介しよう」など)	生徒が <u>当事者</u> として取り組める <u>リアルな課題</u> (「 <u>目的・場面・状況・相手</u> 」を具体化)	「学習の個性化」・「複雑な課題の解決」・「主体的な社会参画」
単元デザイン	文法・語彙など「 <u>知識積み上げ型</u> 」(表現活動は最後のおまけ)	「 <u>バックワード・デザイン</u> 」(<u>単元冒頭にゴール(成果物)</u> を示し、 <u>逆算</u> して必要な力を身に付ける)	「自己調整学習」
思考表現	<u>教科書の内容を正しく理解し、説明・要約</u> する(ICEモデルのIdeas)。	情報を <u>自分の経験と結びつけ</u> (Connections)、 <u>新しい提案を創造する</u> (Extensions)。	「高次の学び」
評価	<u>知識の再現性を重視</u> する「 <u>結果の評価</u> 」(テストの点数)	「 <u>プロセスの評価</u> 」も重視(<u>形成的評価</u> や <u>パフォーマンス評価</u> 、ルーブリックで多面的な見取り)	「学習改善等に活かす評価」

主体的な学習スペクトラム(溝上, 2025)

—学習の主体性は段階的に高まっていく—

「自分で意味づけ・方向づけした状態」
(目的が自分の内側に)

対自的



(Ⅲ層)「人生型」の主体的な学習

- 中長期的な人生の目標達成、アイデアンティティ形成、ウェルビーイングを目指して課題に取り組む態度
- 将来の夢や目標を具体的に考え、学習に動機づけられたときに見られる学習態度



(Ⅱ層)「自己調整型」の主体的な学習

- 学習目標・方略、メタ認知を用いるなどして、自身を方向づけたり調整したりして課題に取り組む態度
- 「自己調整学習」(ジーマンら)
「自己決定理論」(デシとライアン)など



(Ⅰ層)「課題依存型」の主体的な学習

- 興味・関心をもって課題に取り組む
- 教師が工夫した課題の面白さに惹かれて、興味・関心をもって学習に取り組む態度) : 課題に対して前のめりに学習
(主体的な学習が生起する初発構造)

主体的な学習の深まり

即自的

「与えられたまま・そのまま」の状態
(目的は外から与えられている)

本日の流れ

①前提（実践の前に）

②探究型英語授業のイメージ

③探究型英語授業のポイント 1 魅力的な課題づくり

④探究型英語授業のポイント 2 単元構成

⑤生徒の声

疑問・問い



7章



探究型英語授業について、
実際の生徒は、
どう感じている？

—生徒の声から見る英語探究—

生徒の声（生活・社会と関連した探究的な教科学習）



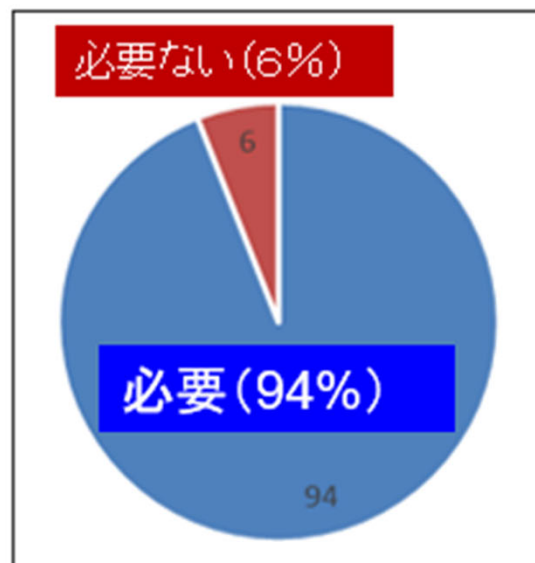
課題解決策の「提案」で終わらず、そうした意識を高め、実際に支援が必要な人を助ける行動をしている。

以下は、こうした学習を通じた彼らの感想。

- 本文内容を私たちの生活の中に関連づけて考える力がついた
- 社会のいろいろな面に目を向けるきっかけになった
- 国際的な問題について考えるのも楽しかったし、自分ごととして解決案を考えられたと思う
- 世界の様々な問題について自分の意見を持ち英語で表現することができるようになった
- 社会のために自分が何をできるかを考えられるようになった

生徒の声から見る英語探究

英語探究を経験した生徒(2クラス)、英語探究の必要性を尋ねる。



【結果】

- 「必要」が大多数(94%:45件)
- 「必要ない」はごく少数(6%:3件)



「必要ない」と感じる理由は？
(3件の自由記述)

- 「効果がよくわからない」(成果の実感が乏しい)
- 「解決策を考えるだけで実行できていない」
- 「準備や調査に時間がかかって大変」(負担感)


=「成果が見えにくいこと」や「負担感」が要因

- ★英語探究の頻度や量を適切に!
- ★関心や進路に合わせたテーマ設定を!



生徒の声から見る英語探究

英語探究は「必要」(94%:45件)の理由

- A. **頭に残り、考える力がつく**(知識が定着し、思考力が伸びる)
- ・「自分で考えることで単元の内容が頭に残りやすい」
 - ・「自ら考えることで理解が深まり、学習力や思考力が身につく」
- B. **社会や世界が見えてくる**(社会問題に気づき、視野が広がる)
- ・「目を背けていた問題に気づき、解決策を考えるきっかけになる」
 - ・「固定概念をなくし、多様な視点で考えるようになる」
 - ・「世界や地域の問題がよくわかる。好奇心が刺激される」
- C. **将来や進路に役立つ**(課題解決力や入試につながる)
- ・「将来、大きな課題に対する解決策を自分で考える場面が多いから必要」
 - ・「社会に出る前に、社会について考える力が支えになる」
 - ・「英作文のテーマや、小論文や面接など入試にもつながる」
- D. **関心が広がり、学びたくなる**(探究心が育つ)
- ・「ニュースを通じて考えを深めることで、社会に出る力が養われる」
 - ・「普段調べない分野にも主体的に触れることができ、知識が増える」
 - ・「自分の地域や世界の問題を知るきっかけになる」
- 

疑問・問い



5章



(何となく英語探究の
イメージがつかめたところで)
英語探究に取り組む
理由は?

英語授業で探究に取り組む3つの理由



① 英語を「実際に使う」機会が増える

- ・調べて自分の考えでまとめたものを英語で発表する
(語彙・文法、発表、やり取りの力)

※丸暗記よりも、自分の知識や経験、興味と結びついて「意味のある学習：meaningful learning」の方が記憶に残りやすい。(オズベル「有意味学習」)



② 思考力や課題解決力が育つ

- ・問いを立て、情報を集め、整理・分析し、表現する。
この過程で、情報を関連付け、意見をかたちにする思考力や、
課題発見力・発想力・判断力・表現力などの課題解決力が育成



③ 社会とつながり、学ぶ意味を実感できる

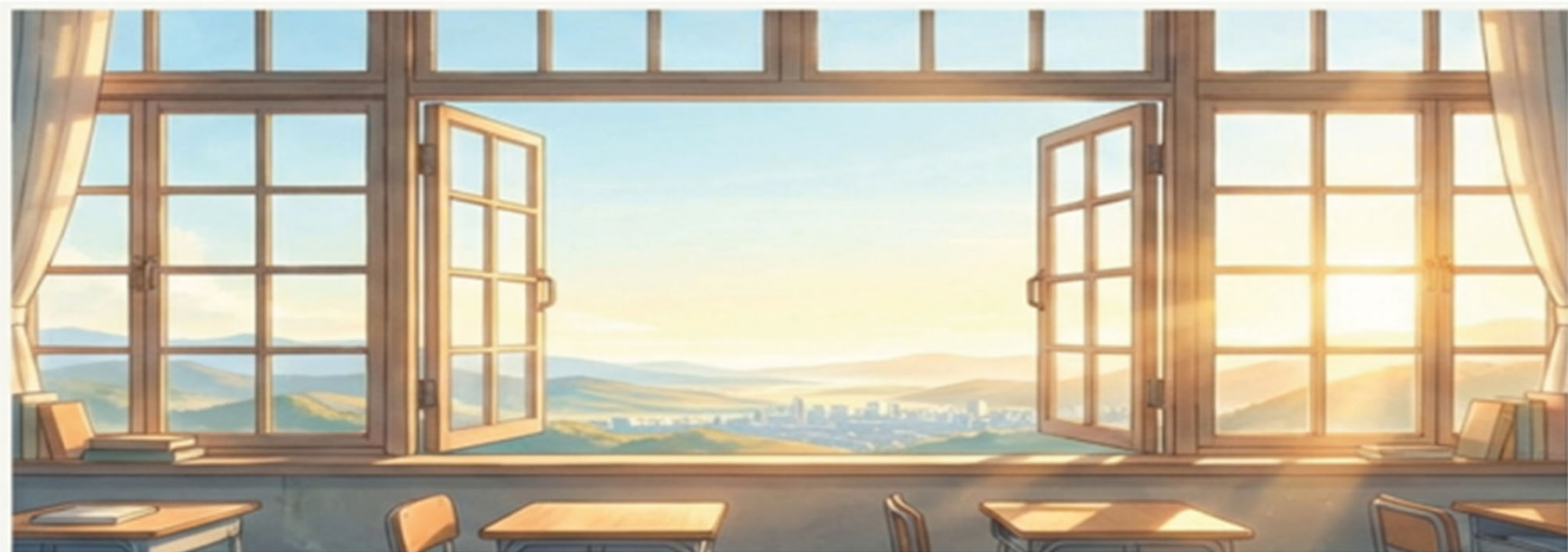
- ・教科書の学びを生活や将来、社会と結びつけて学び
「学びが役立つ」実感を生み、社会や将来への関心を高める

※探究型授業では、社会や生活に目を向ける機会が増えるので、
「持続可能な社会の創り手」を育む教育では、英語探究が重要。

探究型英語授業とは、

- 英語を使う経験を通して、
- 学びを社会や生活と結びつけ、
- 思考力や課題解決力を育む「深い学び」

探究する英語授業を始めましょう



教師の工夫や問いかけが、生徒の目の輝きを変えます。

そして何より、「教える側も面白くなる」。

それでは、一緒に——

**探究する英語授業への冒険、
ここから始めましょう！**



上山晋平、本書「まえがき」より

英語授業を探究型に！

悩みや解決策をまとめたガイドブック



1章 探究とは？
探究型英語授業の**基本**

2章 これで分かる！
探究型授業**6つのプロセス**

3章 時間がなくてもできる！
探究型授業**5つのモデル**

4章 テーマで選ぶ！
「**教科書探究**」**8つの授業レシピ**

5章 探究の成果をどう測る？
評価・学力・入試とのつながり

6章 授業づくりを支える！
探究の**視点とツール**

7章 実践しよう！
探究型授業の**単元デザイン**